

*The Japanese
Society of
Toxicology*

**Vol. 50 No. 5
October 2025**

毒性学ニュース

Toxicology News

一般社団法人日本毒性学会

The Japanese Society of Toxicology

毒性学ニュース Contents

日本毒性学会からのお知らせ

苗代一郎博士 追悼文	56
2024 年～2026 年日本毒性学会理事監事および各種委員会委員長について	57
2025 年度一般社団法人 日本毒性学会 評議員会・社員総会報告	58
2024 年度事業報告 /	
2024 年度収支計算書・正味財産増減計算書・貸借対照表・財産目録・注記 /	
2025 年度事業計画書 / 2025 年度予算書 / 2025 年度新名誉会員一覧 /	
2025 年度新功労会員一覧 / 2025 年度名誉トキシコロジスト一覧 /	
2025 年度新評議員一覧	
第 52 回日本毒性学会学術年会報告	74
第 52 回日本毒性学会学術年会要旨集の販売について	76
第 53 回日本毒性学会学術年会のご案内（第 2 報）	77
2026 年度日本毒性学会表彰の推薦について	
特別賞候補者推薦要領	79
学会賞候補者推薦要領	80
日本毒性学会佐藤哲男賞（国際貢献賞）候補者推薦要領	81
日本毒性学会学会貢献賞候補者推薦要領	82
日本毒性学会奨励賞候補者推薦要領	83
日本毒性学会教育委員会からのお知らせ（第 5 報）	84
米国毒性学会（SOT）教育コースへの派遣者公募	86
その他のお知らせ	
製薬協主催オンラインセミナーシリーズ 開催案内	
「非臨床病理学領域におけるデジタル化・AI 利用：欧州 IMI-BIGPICTURE	
プロジェクトの現状と今後の展望」	88
一般社団法人日本毒性学会の定款および規程類について	

苗代一郎博士 追悼文

日本毒性学会の功労会員である苗代一郎博士がご逝去されました。

謹んで哀悼の意を表します。

苗代博士は、1982年に京都大学農学部をご卒業後、武田薬品工業株式会社に入社され、当時、大阪府高槻市に所在した薬剤安全性研究所にお勤めになりました。医薬品開発の毒性試験における臨床生化学検査に従事される傍ら、毒性機序解明の研究にも取り組まれました。高血圧治療薬のACE阻害剤やARBの毒性試験でしばしば認められる貧血所見について研究し、エリスロポエチン産生抑制による腎性貧血であることを解明し、1999年には京都大学から博士号（農学）を授与されています。また、本学会でトキシコロジスト認定制度が発足した1998年には、いち早く認定トキシコロジスト資格を取得されました。2000年代に入ってから、社内の毒性研究におけるプラットホームの整備に取り組み、各種毒性試験に使用する新規系統Crj:CD(SD)IGSラットの導入や、変異原性等の毒性予測システムの導入にご尽力されました。

社外でもこの頃から日本製薬工業協会（製薬協）基礎研究部会や安全性評価研究会（谷本学校）で活動されています。苗代博士は人懐っこく、気さくな性格で、後輩達の面倒見の良い人でした。その長所は、産官学の毒性研究者が実践的な課題解決のため、組織、世代、立場を超えて情報提供や意見交換を行う、安全性評価研究会の場で如何なく発揮されたと思います。苗代博士は同研究会の幹事長を2012～2014年の間勤められました。同研究会では、課題解決の議論の成果を機関紙「毒性質問箱」（年刊）で公表していますが、苗代博士は、本学会の学術年会でもワークショップあるいはシンポジウムという形での発表を主導し、学会の発展、ひいては国内の毒性研究者全体の底上げに多大な貢献をされました。

2014年には、（独）医薬品医療機器総合機構（PMDA）に転職され、規制当局の立場として、ICHガイドライン専門家会議、Computational Toxicology等の産業界との会合で活躍されました。その後、シミックホールディングス株式会社に転職され、引き続き本学会での活動を継続されています。本学会では、理事を2012～2016年の2期4年、2018～2022年の2期4年の、計4期8年間務められ、理事としても学会の発展に大いに貢献されました。

病魔に侵されてからも治療を続けながら学術年会に足を運び、シンポジウムやワークショップで積極的に質問されていたお姿を思い出します。コロナ禍のあと、2022年の札幌、2023年の横浜、2024年の福岡と、欠かさず年会会場でお見掛けしました。毒性研究と後輩研究者達への熱い思いが窺えます。本年の沖縄での年会も出席を希望されていたそうですが、叶わず7月15日に息を引き取られました。享年66歳でした。

苗代博士の幼少期からの夢は、ジェットパイロットになり大空を駆け巡ることでした。今頃は天空を奔放に飛び回っているに違いありません。

これまでの本学会へのご貢献に謹んでお礼申し上げるとともにご冥福をお祈り申し上げます。ありがとうございます。

日本毒性学会 功労会員
西田 信之

日本毒性学会理事監事

(任期：2024年社員総会～2026年社員総会)

●理事長

広瀬 明彦 (一財) 化学物質評価研究機構

●理事

朝倉 省二 エーザイ (株)
浅沼 幹人 岡山大学
阿部 (富澤) 香織 大塚製薬 (株)
安西 尚彦 千葉大学大学院
鍛冶 利幸 東京理科大学
北嶋 聡 国立医薬品食品衛生研究所
鈴木 睦 協和キリン (株)
田口 恵子 東京大学
土屋 由美 第一三共 (株)
奈良岡 準 アステラス製薬 (株) / 筑波大学

南谷賢一郎 協和キリン (株)
西村 泰光 川崎医科大学
黄 基旭 東北医科薬科大学
藤村 成剛 国立水俣病総合研究センター
藤原 泰之 東京薬科大学
宮内 慎 (株) ファイントゥデイ
務台 衛 メディフォード (株)
山本 千夏 東邦大学
吉成 浩一 静岡県立大学

●監事

杉山 篤 東邦大学
三浦 伸彦 横浜薬科大学

日本毒性学会各種委員会委員長

(任期：2024年社員総会～2026年社員総会)

●印：常置委員会 ○印：小委員会

●理事長

広瀬 明彦

●総務委員会

藤原 泰之
○連携小委員会
黄 基旭
○評議員選考小委員会
北嶋 聡
○名誉会員および功労会員選考委員会
藤原 泰之
○指針値検討小委員会
橋本 清弘
○企画戦略小委員会
高橋 祐次
○中高生向け企画小委員会
奈良岡 準

●財務委員会

朝倉 省二

●編集委員会

鍛冶 利幸
○JTS 編集委員会
鍛冶 利幸
○FTS 編集委員会
永沼 章
○Executive Editor 小委員会
永沼 章
○田邊賞選考小委員会
安彦 行人
○毒性学ニュース編集委員会
古武 弥一郎

●教育委員会

土屋 由美
○生涯教育小委員会
黄 基旭
○基礎講習会小委員会
橋本 清弘

○認定試験小委員会

福島 民雄

●学術広報委員会

吉成 浩一
○学会賞等選考小委員会
山添 康
○佐藤哲男賞・学会貢献賞選考小委員会
姫野誠一郎
○特別賞等選考小委員会
菅野 純
○技術賞選考小委員会
三島 雅之
○日化協 LRI 賞選考小委員会
小椋 康光
○学術小委員会
吉成 浩一
○広報小委員会
宮内 慎
○トピックス小委員会
北口 隆

◆IUTOX

西村 泰光

◆ASIATOX

田口 恵子

◆SOT 担当

小野 竜一 西村 拓也

◆日本学術会議担当

石塚真由美

◆KSOT 担当

黄 基旭

◆日本中毒学会担当

北嶋 聡

◆日本毒性病理学会担当

古川 賢

◆日本免疫毒性学会担当

西村 泰光

◆日本薬理学会担当

安西 尚彦

◆日本内分泌攪乱物質学会担当

菅野 純

2025 年度 一般社団法人日本毒性学会 評議員会・社員総会 議事録

会 期：2025 年 7 月 3 日（木）15：00～16：30
会 場：沖縄コンベンションセンター 劇場棟 劇場（第 1 会場）
議 長：黄 基旭（第 52 回学術年会長）
社員数：2,593 名
社員出席者数：171 名（委任状数：1,254 通）
評議員数：335 名
評議員出席数：110 名

15 時 00 分、開会が宣せられ、定款第 23 条に基づき黄第 52 回学術年会長が議長となった。また定款第 24 条に定める社員総会成立要件の定足数（総社員数の 1/2 以上）に達したことが報告され、2025 年度一般社団法人 日本毒性学会 評議員会・社員総会が開催され議事に入った。

I. 審議・承認事項

第 1 号議案 2024 年度事業報告

広瀬理事長より、2024 年度の事業について報告があり承認された。

第 2 号議案 2024 年度決算および監査報告

朝倉財務委員長より、2024 年度の収支決算について報告があった。三浦監事より、学会の事業および会計が適切に行われているとの監査報告があり、収支決算は原案通り承認された。

第 3 号議案 新名誉会員・新功労会員の推薦

広瀬理事長より、新名誉会員 2 名、新功労会員 2 名を推薦する旨、報告され承認された。

第 4 号議案 新評議員の推薦・現評議員の再任

広瀬理事長より、新評議員として 17 名を推薦することが提案され、承認された。また、評議員の 2025 度の再任（207 名）についても承認された。

第 5 号議案 第 55 回学術年会長の推戴

広瀬理事長より、第 55 回学術年会長として角崎英志先生（株新日本科学）を推薦する旨、提案があり承認された。

II. 報告事項

1. 2025 年度事業計画

広瀬理事長より、2025 年度事業計画について報告があった。

2. 2025 年度予算

朝倉財務委員長より、2025 年度収支予算について報告があった。

3. 教育委員会

土屋教育委員長より、米国毒性学会教育コースへの会員派遣、名誉トキシコロジスト表彰者（9 名）、第 28 回基礎教育講習会、第 28 回認定トキシコロジスト認定試験、第 26 回生涯教育講習会について報告があった。

4. 編集委員会

鍛冶編集委員長より、The Journal of Toxicological Sciences (JTS) ならびに Fundamental Toxicological Sciences (FTS) の発行状況、論文掲載数について報告があった。2024 年の JTS のインパクトファクターは「1.5」であった。加えて、田邊賞およびファイザー賞受賞論文が報告された。また、2025 年 6 月 1 日より JTS/FTS 誌の新しい投稿規程が施行され、オープンアクセスジャーナルとなったことが報告された。

5. 学術広報委員会

吉成学術広報委員長より、学術広報委員会、学術小委員会、広報小委員会およびトピックス小委員会からの報告について説明があった。また、2025 年度特別賞、学会賞、学会貢献賞、奨励賞、技術賞受賞者、日化協 LRI 賞受賞者が報告された。

6. 連携小委員会

黄連携小委員会委員長および西村 IUTOX 担当、田口 ASIATOX 担当、小野 SOT 担当、西村 IUTOX 担当より、国内外関連学会との連携や今後の開催予定について報告と紹介があった。

7. 指針値検討小委員会

橋本指針値検討小委員会委員長にかわり、藤原総務委員長より、現在の活動ならびに検討事項の概要、第 6 回毒性評価値設定講習会の開催予定について報告があった。

8. 企画戦略小委員会	同	藤村 正剛
高橋企画戦略小委員会委員長より、企画戦略小委員会及び中高生向け小委員会の現在の活動ならびに検討事項の概要について報告があった。	同	藤原 泰之
	同	宮内 慎
	同	務台 衛
9. 中高生向け企画小委員会	同	山本 千夏
奈良岡中高生向け企画小委員会委員長より、現在の活動ならびに検討事項の概要について報告があった。	同	吉成 浩一

Ⅲ. 学術年会

1. 第 52 回学術年会報告
黄第 52 回学術年会長より、現況報告と会員諸氏のご協力への感謝表明があった。
2. 第 53 回学術年会長挨拶
宮脇第 53 回学術年会長より、次期学術年会の開催について説明があった。

評議員会・社員総会の後、名誉会員証・功労会員証授与式、特別賞・学会賞・学会貢献賞・奨励賞授賞式、技術賞・田邊賞・ファイザー賞授賞式および日化協 LRI 賞授賞式を執り行った。

16 時 30 分、議長は、以上をもってすべての議事を終了した旨を述べ、閉会を宣した。

上記の決議を明確にするため、定款第 26 条に従いこの議事録をつくり、議長および出席理事の全員がこれに記名押印する。

議 長	黄 基旭
出席理事	広瀬 明彦
同	朝倉 省二
同	浅沼 幹人
同	阿部 香織
同	安西 尚彦
同	鍛冶 利幸
同	北嶋 聡
同	鈴木 陸
同	田口 恵子
同	土屋 由美
同	奈良岡 準
同	南谷 賢一郎
同	西村 泰光

(資料1)

一般社団法人日本毒性学会 2024 年度事業報告

[1] 事業の部

概 要

2024 年度は、定款で定められた本会の目的「本会は毒性学領域の研究の進歩発展を図ることを目的とし、次の事業を行う。1. 学術集会の開催、2. 会誌の発行、3. トキシコロジストの教育及び資格認定、4. その他上記の目的を達成するための必要な事業」を達成するために、広瀬新理事長の下、新しい執行体制で学会運営並びに事業を行った。

新執行体制の最初の理事会において、本任期内に取り組み課題について大きく以下の5つの項目を挙げた。①ダイバーシティの推進：若手・女性研究者の活躍の場の提供、②年会運営の効率化、③コミュニケーションツールの導入・改良、④国内外の学会連携強化、⑤各種講習会などの運営形態の適正化。以下、これら課題への取り組み状況を概括する。

①については、企画戦略小委員会の下ダイバーシティー推進WGにおいて評議員および理事・監事における女性比率向上策等について引き続き議論を進めた。なお、第51回学術年会で実施された若手企画シンポジウムに関しては、総務委員会として継続的にフォローアップしていくこととした。

②については、アドホックWG「年会運営改革WG」を立ち上げ、年会長と学会本部の役割・責任分担の明確化の検討や学術年会実施ガイドラインの策定に向けた活動を行った。

③については、学術広報委員会において、コミュニケーションツールの導入・改良を検討している。

④については、総務委員会内の連携小委員会が中心となり連携学会とのMOUの見直し等を進めると共に米国 Society of Toxicology (SOT) の新企画 (Global Session) への連携対応を行った。

⑤については、教育委員会が中心となり、各講習会についてオンラインと対面の効率化を検討して運営形態の適正化の検討を行った。

その他の学会運営状況は以下に示す通りであった。

第51回学術年会 (2024 年 7 月 3～5 日) は、福岡県福岡市において開催し、1,653 名 (招待者含む) の参加者を集めた。併せて市民公開セミナーを学術年

会翌日 (2024 年 7 月 6 日) に開催し、150 名の参加者を集めた。

第25回生涯教育講習会 (2024 年 7 月 5 日～8 月 4 日) 並びに第27回基礎教育講習会 (2024 年 4 月 26 日～2025 年 3 月 31 日) はオンデマンド配信にて実施した。第27回日本毒性学会認定トキシコロジストの認定試験 (2024 年 10 月 20 日) は、昭和大学旗の台キャンパスにて実施した。第5回毒性評価値設定講習会 (2024 年 12 月 13 日) は、対面 + Webex によるハイブリッドにて開催した。

各部会主催の研究会として、「第7回医薬品毒性機序研究会 (2025 年 1 月 8 日～9 日)」、「メタルバイオサイエンス研究会 2024 (2024 年 10 月 17 日～18 日)」及び「付加体科学部会 第2回シンポジウム (2024 年 10 月 25 日～26 日)」をそれぞれ対面形式で実施した。

2つの学会誌 (Journal of Toxicological Sciences (JTS), Fundamental Toxicological Sciences (FTS)) 及び毒性学ニュースはスケジュール通り刊行された。毒性学ニュースについては、新たな企画等を導入する等の充実化を図ることを推進している。また、JTS/FTS の完全オープンアクセス化に向けた準備を進めている。

本学会ホームページの改訂作業を終了し、新ホームページを公開した。また、スマートフォン用の web page も作成し、公開した。学術広報委員会からは継続的にホームページへの毒性学トピックス解説の掲載やメールマガジン発出などの情報発信を行っている。

表彰選考は予定通り実施された。2024 年度は学術貢献賞の受賞者はなかったが、特別賞を含め、その他全ての表彰に対して受賞者があった。

国際連携活動としては、2025 年 3 月に開催された第64回 Society of Toxicology (オランダ) に JSOT 紹介ポスターを掲示し、JSOT ブースを出展した。また、JSOT-SOT ジョイントシンポジウムを開催し、本学会から教育コースへの受講者2名を派遣した。第64回 SOT 年会中に開催された IUTOX 主催の活動や会議に IUTOX 担当関係者らが参加した。

新たに6名の功労会員を推薦し、18名の新評議員を任命した。また、116名の評議員再任が承認された。

総務委員会内に、中高生を対象とした毒性学の啓蒙活動としてアワード設置等具体的な取組みを推進するための中高生向け企画小委員会を新たに設置した。

国立大学教育研究評価委員会専門委員会及び機関別
認証評価委員会専門委員の候補者の推薦を行った。
日本薬系学会連合へ今後同連合として取り組む課題
を提案した。また、就職活動問題 WG およびダイバー
シティ推進検討 WG へ本会より委員を推薦した。

2024 年度事業の詳細は以下の通りである。

(敬称略)

1. 会員の異動

(1) 会員数 (2025 年 4 月 30 日)

一般会員国内	1,892 名
海外	31 名
評議員国内	336 名
海外	0 名
学生会員国内	196 名
海外	14 名
名誉会員国内	21 名
功労会員国内	32 名
計 2,522 名	
賛助会員	47 件
(ダイヤモンド1件 プラチナ1件 ゴールド45件)	

(2) 名誉会員・功労会員推薦

新名誉会員	0 名
新功労会員	6 名

2. 会議の開催

理事会	2024 年 7 月 2 日
	2024 年 7 月 4 日
	2024 年 7 月 29 日
	2024 年 8 月 27 日
	2024 年 10 月 29 日
	2024 年 11 月 19 日
	2025 年 3 月 13 日
	2025 年 4 月 25 日
社員総会・評議員会	
	2024 年 7 月 4 日

3. 学術集会・講習会の開催

(1) 第 51 回日本毒性学会学術年会

2024 年 7 月 3 日～7 月 5 日 福岡国際会議場
年会長：上原 孝
(岡山大学学術研究院医歯薬学域薬効
解析学)
参加者：現地参加 1,653 名 (招待者含む)

(2) 第 25 日本毒性学会生涯教育講習会

2024 年 7 月 5 日～8 月 4 日 オンデマンド配信
受講者：114 名

(3) 第 21 回市民公開セミナー

「かゆみの仕組みと解決法、知りたくありませんか？」

2024 年 7 月 6 日 九州大学医学部 百年講堂
参加者：150 名

(4) 第 5 回毒性評価値設定講習会 (指針値検討小 委員会・教育委員会)

2024 年 12 月 13 日
マイナビ PLACE | 歌舞伎座タワー + Webex
によるハイブリッド開催
参加者：93 名 (現地：10 名, WEB：83 名)

(5) メタルバイオサイエンス研究会 2024 (生体金 属部会主催)

2024 年 10 月 17 日～10 月 18 日
水俣市総合もやい直しセンター「もやい館」
実行委員長：藤村 成剛
(国立水俣病総合研究センター)
参加者：99 名

(6) 第 7 回医薬品毒性機序研究会 (医薬品毒性機 序研究部会主催)

2025 年 1 月 8 日～1 月 9 日
グランシップ (静岡県コンベンションアーツ
センター)
実行委員長：吉成 浩一 (静岡県立大学薬学部)
参加者：118 名

(7) 付加体科学部会 第 2 回シンポジウム (付加体 科学部会主催)

2024 年 10 月 25 日～10 月 26 日
国立研究開発法人理化学研究所・和光キャンパス
鈴木梅太郎記念ホール
実行委員長：伊藤 昭博
(東京薬科大学生命科学部)
参加者：65 名

(8) 第 28 回日本毒性学会基礎教育講習会

2025 年 4 月 23 日～2026 年 3 月 31 日
受講申込：126 名 + 10 団体

4. 認定試験の実施

第 27 回日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験
2024 年 10 月 20 日 昭和大学旗の台キャンパス
受験者：68 名 認定者：25 名

5. 学会誌・その他の刊行物の刊行

The Journal of Toxicological Sciences
49 巻 5 号～50 巻 4 号
(3 ヶ月毎に合併号を小部数印刷していたが、49 巻にて終了)
Fundamental Toxicological Sciences
11 巻 3 号～11 巻 6 号、12 巻 1 号～12 巻 2 号
毒性学ニュース
49 巻 3 号～6 号、50 巻 1 号～2 号

6. 賞の授与

(1) 2024 年度特別賞

研究課題名：睡眠覚醒制御機構の解明とそれ
に基づく創薬開発への応用
氏名：柳沢 正史
所属：筑波大学 国際統合睡眠医科学研究機構
(WPI-IIMS)

(2) 2024 年度学会賞 (1 名)

研究課題名：化学物質のリスク評価に向けた
肝毒性発現機序研究
氏名：吉成 浩一
所属：静岡県立大学薬学部

(3) 2024 年度佐藤哲男賞 (国際貢献賞) (1 名)

授賞タイトル：国際化進展を鑑みた学術およ
び学会活動
氏名：熊谷 嘉人
所属：九州大学大学院薬学研究院

(4) 2024 年度学会貢献賞 (0 名)

受賞者なし

(5) 2024 年度奨励賞 (3 名)

研究課題名：Mas-related G-protein coupled
receptor X2 を介する薬剤誘発性
IgE 非依存性 アレルギー様反応
の感受性差に関する研究
氏名：浜村 えり
所属：第一三共株式会社 安全性研究所

研究課題名：多様なメカニズムによる酸化ス
トレスの惹起：メイラード反応
産物による細胞障害と薬物代謝
酵素シトクロム P450 の機能抑制

氏名：宮内 優
所属：崇城大学薬学部

研究課題名：医薬品曝露によって生じる口蓋
裂発症とマイクロ RNA 発現変動
に関する研究

氏名：吉岡 弘毅
所属：岐阜医療科学大学薬学部

(6) 2024 年度技術賞 (3 名)

受賞者名：北口 隆 (日清食品ホールディング
ス株式会社 グローバル食品安
全研究所)
研究課題名：再現性を向上させた in vitro 毛細
胆管モデルの構築

受賞者名：倉重 誠一郎 (EA ファーマ株式会
社 (現所属・協和キリン株式会
社))
研究課題名：急性臓毒性バイオマーカーと
しての miR-216a および miR-217
の汎用性の確立

受賞者名：竹村 晃典 (千葉大学大学院薬学研
究院 生物薬剤学研究)
研究課題名：in vitro 肝毒性評価系の外挿性向
上の取り組み

(7) 2024 年度田邊賞受賞論文 (4 題)

論文：Construction of extended and functional
bile canaliculi using long-term sandwich-
cultured cryopreserved human
hepatocytes and the application of
hepatocytes for predicting the biliary
excretion of pharmaceutical and food-
related compounds

著者：Takashi Kitaguchi, Shinichiro Horiuchi,
Yukie Kuroda, Katsutoshi Ohno,
Kazuhiro Kobayashi, Mitsuru Tanaka,
Seiichi Ishida

受賞者：北口 隆 (日清食品ホールディン

グス株式会社 グローバル食品安全
研究所)

黒田 幸恵 (国立医薬品食品衛生研
究所 薬理部)

大野 克利 (日清食品ホールディングス
株式会社 グローバル食品安全研究所)

石田 誠一 (崇城大学大学院 工学研究科)

論文: Human gut microbiota influences drug-
metabolizing enzyme hepatic Cyp3a: A
human flora-associated mice study

著者: Masao Togao, Takashi Kurakawa,
Shinnosuke Tajima, Gaku Wagai, Yuki
Ohta-Takada, Jun Otsuka, Akinobu
Kurita, Koji Kawakami

受賞者: 梅尾 正雄 (ヤクルト本社中央研究所)

論文: Preclinical in vitro evaluation of
immune suppression induced by
GYM329, Fc-engineered sweeping
antibody

著者: Yoshika Iwata, Hitoshi Katada, Momoko
Okuda, Yoshiaki Doi, Tim Jang Ching,
Asako Harada, Akira Takeiri, Masaki
Honda, Masayuki Mishima

受賞者: 岩田 良香 (中外製薬株式会社 安全
性バイオサイエンス研究部)

本多 正樹 (中外製薬株式会社 安全
性バイオサイエンス研究部)

三島 雅之 (国立医薬品食品衛生研
究所 ゲノム安全科学部)

原田 麻子 (中外製薬株式会社 安全
性バイオサイエンス研究部)

竹入 章 (中外製薬株式会社 安全
性バイオサイエンス研究部)

論文: Continuous infiltration of small
peritoneal macrophages in the mouse
peritoneum through CCR2-dependent
and -independent routes during fibrosis
and mesothelioma development induced
by a multiwalled carbon nanotube,
MWNT-7

著者: Motomu Shimizu, Motoki Hojo,
Kiyomi Ikushima, Yukio Yamamoto,

Ai Maeno, Yoshimitsu Sakamoto,
Naozumi Ishimaru, Yuhji Taquahashi,
Jun Kanno, Akihiko Hirose, Jin Suzuki,
Akiko Inomata, Dai Nakae

受賞者: 北條 幹 (東京都健康安全研究セ
ンター 薬事環境科学部)

中江 大 (帝京平成大学 健康医療
スポーツ学部 医療スポーツ学科)

前野 愛 (東京都健康安全研究セ
ンター 薬事環境科学部)

坂本 義光 (東京都健康安全研究セ
ンター 薬事環境科学部)

高橋 祐次 (国立医薬品食品衛生研
究所 安全性生物試験研究センター
毒性部)

菅野 純 (国立医薬品食品衛生研究所
安全性生物試験研究センター 毒性部)

広瀬 明彦 (化学物質評価研究機構
安全性評価技術研究所)

猪又 明子 (東京都健康安全研究セ
ンター 薬事環境科学部)

(8) 2024 年度ファイザー賞受賞論文 (4 題)

論文: A rapid screening assay for L452R and
T478K spike mutations in SARS-CoV-2
Delta variant using high-resolution
melting analysis

著者: Akira Aoki, Hirokazu Adachi, Yoko
Mori, Miyabi Ito, Katsuhiko Sato, Kenji
Okuda, Toru Sakakibara, Yoshinori
Okamoto, Hideto Jinno

受賞者: 神野 透人 (名城大学薬学部)

青木 明 (名城大学薬学部)

森 葉子 (名城大学薬学部 (現:
国立医薬品食品衛生研究所))

岡本誉士典 (名城大学薬学部)

論文: Environmental cadmium exposure
induces kidney tubular and glomerular
dysfunction in the Myanmar adults

著者: Muya Win-Thu, Ohnmar Myint-Thein,
Tin-Tin Win-Shwe, Ohn Mar

受賞者: Tin-Tin Win-Shwe (国立研究開発法
人国立環境研究所 環境リスク・健
康領域)

論文：Adverse effects of methylmercury on gut bacteria and accelerated accumulation of mercury in organs due to disruption of gut microbiota
著者：Natsumi Seki, Masahiro Akiyama, Hiroto Yamakawa, Koji Hase, Yoshito Kumagai, Yun-Gi Kim
受賞者：秋山 雅博（昭和大学 臨床薬理研究所）
関 夏実（京都大学 がん免疫総合研究センター）
熊谷 嘉人（九州大学大学院 薬学研究院）

論文：Chronic cardiotoxicity assessment of BMS-986094, a guanosine nucleotide analogue, using human iPS cell-derived cardiomyocytes
著者：Shota Yanagida, Ayano Satsuka, Sayo Hayashi, Atsushi Ono, Yasunari Kanda
受賞者：諫田 泰成（国立医薬品食品衛生研究所 薬理部）
柳田 翔太（国立医薬品食品衛生研究所 薬理部）
佐塚 文乃（国立医薬品食品衛生研究所 薬理部）
林 紗代（国立医薬品食品衛生研究所 薬理部）
小野 敦（岡山大学）

7. 賞の選考

- (1) 2024 年度日化協 LRI 賞（1 名）
研究課題名：メチル水銀による末梢感覚神経障害とその回復機構
氏名：篠田 陽
所属・職：東京薬科大学薬学部
公衆衛生学教室 准教授

8. 国際学会・会議への協力

- (1) 第 64 回 Society of Toxicology (SOT) 年会 (2025 年 3 月 16 日～20 日、オランダ) において、グローバルギャラリーに JSOT 紹介ポスターを掲示、ToxExpo に JSOT ブースを出展した。
- (2) SOT との連携強化
第 64 回 SOT 年会中の SOT/JSOT Leadership

Meeting において今後の連携について協議を行った。
第 64 回 SOT 年会の CE コースに下記の 2 名の学会員を派遣した。
・三ヶ島 史人先生（独立行政法人 医薬品医療機器総合機構）
・栃谷 智明先生（住友ファーマ 株式会社）
第 64 回 SOT にて JSOT-SOT ジョイントシンポジウムを開催し、菅野 純 先生（国立医薬品食品衛生研究所）と久保田 彰 先生（帯広畜産大学）が登壇した。

(3) IUTOX への活動協力

第 64 回 SOT 年会中に開催された IUTOX 主催の Global Gallery Coffee セッションに JSOT から複数名が参加すると共に、IUTOX Big Five Meeting に IUTOX 担当関係者が参加し IUTOX の主要加盟学会との意見交換を行った。

[2] 組織運営の部

1. 新名誉会員・新功労会員

一般社団法人日本毒性学会名誉会員・功労会員推薦規程に基づき、6 名の新功労会員につき、2024 年度評議員会・総会において、全推薦者が承認された。

2024 年度日本毒性学会新功労会員一覧（敬称略）

氏 名	所 属
天野 幸紀	元 興和デンタルヘルス株式会社
菅野 純	国立医薬品食品衛生研究所
佐藤 雅彦	愛知学院大学 薬学部衛生薬学講座
苗代 一郎	シミックホールディングス株式会社
中江 大	帝京平成大学 健康医療スポーツ学部
鰐渕 英機	大阪公立大学大学院 医学研究科分子病理学

2. 新評議員及び評議員の再任

一般社団法人日本毒性学会評議員選出規程に基づき 18 名の新評議員候補者及び 116 名の評議員再任候補者につき、2024 年度評議員会・総会において、全候補者が承認された。

2024 年度日本毒性学会新評議員一覧（敬称略）

氏名	所属
安孫子 ユミ	長崎大学
荒木 智陽	(株) 新日本科学
片木 淳	小野薬品工業 (株)
加藤 隆児	大阪医科薬科大学

岸田 知行	キッセイ薬品工業（株）
坂田 恵美	（株）新日本科学 安全性研究所
志津 怜太	静岡県立大学
諏訪園 靖	千葉大学大学院医学研究院
高石 雅樹	国際医療福祉大学
田邊 思帆里	国立医薬品食品衛生研究所
外山 喬士	東北大学
鳥塚 尚樹	ジェンマップ（株）
永野 匡昭	国立水俣病総合研究センター
橋本 清弘	武田薬品工業（株）
宮内 優	崇城大学
山口 貴嗣	（株）カネカ
山下 晴洋	アステラス製薬（株）
山田 知信	（株）新日本科学

3. 第 54 回学術年会長

2024 年度評議員会・総会において、第 54 回学術年会長が承認された。

第 54 回学術年会長：安西 尚彦（千葉大学大学院）

4. 新名誉トキシコロジスト

日本毒性学会認定トキシコロジストの認定制度規程・日本毒性学会名誉トキシコロジスト表彰に関する細則の規程に基づき、11 名の新名誉トキシコロジスト候補者につき、理事会において全候補者が承認され、2024 年度評議員会・総会において了承された。

2024 年度名誉トキシコロジスト一覧

（敬称略）

入江 弘之
岩井 久和
萩原 琢男
勝谷 成男
川原 潤一
金 享津
金 忠龍
齋藤 敏樹
下村 和裕
中島 幹夫
森田 文雄

5. 新認定トキシコロジスト

日本毒性学会認定トキシコロジストの認定制度規程に基づき、第 27 回認定トキシコロジスト認定試験結果を審査し、合格と判定された 25 名の新認定トキシコロジスト候補者につき、理事会において全候補者が承認された。

第 27 回認定トキシコロジスト認定試験合格者一覧

（敬称略）

江口 真嗣	大丸 捷斗	岡上 美羽
岡村 麻絢	齋藤 礼	佐潟 雅隆
佐藤 弘昌	宗 哲慶	添田 三晴
只木 雅人	縄司 奨	西村真理子
濱島 敏之	原田 聡子	BIBEIBEI
平田 淳也	福満 彩子	増渕 康哲
三上忠世志	三木万梨子	森 晶菜
山下ゆかり	吉田 喜香	依田 智美
和田有希子		

※役員、各種委員会委員長及び学会事務局の詳細は附属明細書で記載する。

2024 年度会務日誌

2024 年 5 月 13 日：トピックス小委員会
2024 年 5 月 20 日：新理事準備会
2024 年 6 月 11 日：内部監査
2024 年 6 月 12 日：外部監査
2024 年 6 月 25 日：総務委員会
2024 年 7 月 2 日：理事会
2024 年 7 月 3 日：編集委員会
2024 年 7 月 3 日：生涯教育小委員会
2024 年 7 月 4 日：財務委員会
2024 年 7 月 4 日：トピックス小委員会
2024 年 7 月 4 日：ダイバーシティ推進 WG・若手女性企画委員合同会議
2024 年 7 月 4 日：評議員会・社員総会（定時）
2024 年 7 月 4 日：理事会
2024 年 7 月 5 日：認定試験小委員会
2024 年 7 月 24 日：持ち回り理事会（7 月 24 日から 7 月 29 日）
2024 年 8 月 2 日：毒性学ニュース編集委員会
2024 年 8 月 19 日：トピックス小委員会
2024 年 8 月 20 日：持ち回り理事会（8 月 20 日から 8 月 27 日）
2024 年 9 月 17 日：総務委員会
2024 年 10 月 7 日：トピックス小委員会
2024 年 10 月 7 日：認定試験小委員会（受験資格判定会議）
2024 年 10 月 11 日：持ち回り総務委員会（10 月 11 日から 10 月 21 日）
2024 年 10 月 21 日：認定試験小委員会（合否判定会議）
2024 年 10 月 23 日：持ち回り理事会（10 月 23 日から 10 月 29 日）
2024 年 11 月 12 日：総務委員会
2024 年 11 月 19 日：理事会
2024 年 11 月 26 日：トピックス小委員会
2024 年 12 月 4 日：認定試験小委員会
2025 年 1 月 29 日：トピックス小委員会

2025年2月12日：田邊賞選考小委員会
 2025年2月20日：総務委員会
 2025年2月20日：技術賞選考小委員会
 2025年2月25日：基礎講習会小委員会
 2025年3月13日：理事会
 2025年4月17日：田邊賞選考小委員会
 2025年4月17日：認定小委員会（責任者会議）
 2025年4月18日：トピックス小委員会
 2025年4月18日：持ち回り理事会(4月18日から4月25日まで)
 2025年4月24日：JTS/FTS 編集委員長会議
 註) その他常置委員会・小委員会については、e-mail
 等により審議検討を行った。

一般社団法人日本毒性学会
 2024年度事業報告付属明細書
 (2024年5月1日～2025年4月30日)

1. 理事・監事（理事長を含む）について

一般社団法人日本毒性学会の理事・監事（理事長を含む）は、以下の通り。

●理事長		
広瀬 明彦	(一財) 化学物質評価研究機構	
●理事		
朝倉 省二	エーザイ (株)	
浅沼 幹人	岡山大学	
阿部 香織	大塚製薬 (株)	
安西 尚彦	千葉大学大学院	
鍛冶 利幸	東京理科大学	
北嶋 聡	国立医薬品食品衛生研究所	
鈴木 睦	協和キリン (株)	
田口 恵子	東京大学	
土屋 由美	第一三共 (株)	
奈良岡 準	アステラス製薬 (株) / 筑波大学	
南谷賢一郎	協和キリン (株)	
西村 泰光	川崎医科大学	
黄 基旭	東北医科薬科大学	
藤村 成剛	国立水俣病総合研究センター	
藤原 泰之	東京薬科大学	
宮内 慎	(株) ファイントゥデイ	
務台 衛	メディフォード (株)	
山本 千夏	東邦大学	
吉成 浩一	静岡県立大学	
●監事		
杉山 篤	東邦大学	
三浦 伸彦	横浜薬科大学	

2. 委員会について

一般社団法人日本毒性学会の各委員会の委員長、委員は以下の通り。

●総務委員会	
委員長	藤原 泰之 (東京薬科大学)

委員	鍛冶 利幸、吉成 浩一、土屋 由美、朝倉 省二、務台 衛
オブザーバー	上原 孝、黄 基旭、宮脇 出、安西 尚彦、石塚真由美、西村 泰光、田口 恵子、高橋 祐次
アドバイザー	菅野 純、熊谷 嘉人

◆連携小委員会

委員長	黄 基旭 (東北医科薬科大学)
委員	安西 尚彦、北嶋 聡、古川 賢、小野 竜一、西村 拓也、西村 泰光、菅野 純

◆評議員選考小委員会

委員長	北嶋 聡 (国立医薬品食品衛生研究所)
委員	浅沼 幹人、藤代 瞳、渋谷 淳、阿部 香織、南谷賢一郎

◆名誉会員および功労会員選考委員会（委員非公開）

委員長	藤原 泰之 (東京薬科大学)
-----	----------------

◆指針値検討小委員会

委員長	橋本 清弘 (武田薬品工業 (株))
委員	市原 学、北嶋 聡、渋谷 淳、古川 賢、三島 雅之
委員 (講習会担当)	鈴木 睦

◆企画戦略小委員会

委員長	高橋 祐次 (国立医薬品食品衛生研究所)
委員	小椋 康光、安西 尚彦、奈良岡 準、務台 衛

◇ダイバーシティ推進 WG

WG 長	安西 尚彦 (千葉大学)
副 WG 長	山本 千夏 (東邦大学)
委員	阿部 香織、安部賀央里、近藤 千真、斎藤 文代、田中 直子、徳本 真紀

◆中高生向け企画小委員会

委員長	奈良岡準 (アステラス製薬 (株) / 筑波大学)
委員	安西 尚彦、小椋 康光、鈴木 睦、栗林 正伯
オブザーバー	宮脇 出

●財務委員会

委員長	朝倉 省二 (エーザイ (株))
委員	奈良岡 準、山本 千夏、南谷賢一郎

●編集委員会

委員長	鍛冶 利幸 (東京理科大学)
副委員長	古武弥一郎 (広島大学)、藤原 泰之 (東京薬科大学)
委員	青木 康展、阿部 (富澤) 香織、有蘭 幸司、石井 祐次、市原 学、佐藤 雅彦、栗形麻樹子、渋谷 淳、新開 泰弘、神野 透人、鈴木 雅実、角 大悟、曾根 秀子、立花 研、中川 一平、中西 剛、永沼 章、沼澤 聡、根本 清光、黄 基旭、福島 民雄、三浦 伸彦、山田 久陽、山手 丈至、山本 千夏、吉成 浩一、鰐淵 英機

◆JTS 編集委員会

委員長	鍛冶 利幸 (東京理科大学)
副委員長	古武弥一郎 (広島大学)、藤原 泰之 (東京薬科大学)

◆ FTS 編集委員会

委員長 永沼 章 (東北大学)

◆ Executive Editor 小委員会

委員長 永沼 章 (東北大学)

◆ 田邊賞選考小委員会 (副委員長以下非公開)

委員長 安彦 行人 (国立医薬品食品衛生研究所)

◆ 毒性学ニュース編集委員会

委員長 古武 弥一郎 (広島大学)

委員 朝倉 省二、黒岩 有一、立花 研、
黄 基旭、美谷島克宏

● 教育委員会

委員長 土屋 由美 (第一三共 (株))

委員 美谷島克宏、橋本 清弘、福島 民雄

アドバイザー 高橋 祐次

◆ 生涯教育小委員会

委員長 美谷島克宏 (東京農業大学)

委員 石塚真由美、近藤 美和、齋藤 文代、
真田 尚和、西村 拓也、三浦 伸彦

アドバイザー 鈴木 陸、黄 基旭

◆ 基礎講習会小委員会

委員長 橋本 清弘 (武田薬品工業 (株))

委員 森山 智之、中西 剛、西村 泰光、
古川 賢、山本 千夏、角田 聡

◆ 認定試験小委員会 (副委員長以下非公開)

委員長 福島 民雄 (塩野義製薬 (株))

◇ トキシコロジー 4ed. 編集 WG

WG 長 鈴木 陸 (協和キリン (株))

委員 小野 敦、久米 英介、高橋 祐次、

橋本 清弘、福島 民雄

● 学術広報委員会

委員長 吉成 浩一 (静岡県立大学)

◆ 学会賞等選考小委員会 (委員非公開)

委員長 山添 康 (東北大学)

◆ 佐藤哲男賞 (国際貢献賞)・学会貢献賞選考小委員会 (委員非公開)

委員長 姫野 誠一郎 (昭和大学)

◆ 特別賞等選考小委員会 (委員非公開)

委員長 菅野 純 (国立医薬品食品衛生研究所)

◆ 技術賞選考小委員会 (委員非公開)

委員長 三島 雅之 (国立医薬品食品衛生研究所)

◆ 日化協 LRI 賞選考小委員会 (委員非公開)

委員長 小椋 康光 (千葉大学)

◆ 学術小委員会

委員長 吉成 浩一 (静岡県立大学)

委員 天野 幸紀、山本 千夏、角崎 英志、
藤村 成剛、藤本 和則、鳥塚 尚樹

◆ 広報小委員会

委員長 宮内 慎 ((株) ファイントゥデイ)

副委員長 黒岩 有一 ((株) ポゾリサーチセンター)

委員 田中 直子、黄 基旭、近藤 千真、
西村 真理子

◆ トピックス小委員会

委員長 北口 隆 (日清食品 (株))

委員 川岸 裕幸、木村 朋紀、新開 泰弘、
黒岡 貴生、白川 誉史、南谷賢一郎、
横田 理

★ その他関連の委員会

○ IUTOX

IUTOX 担当 西村 泰光 (川崎医科大学)

Executive Committee, Director

広瀬 明彦 ((一財) 化学物質評価研究

機構)

○ ASIATOX

ASIATOX 担当 田口 恵子 (東京大学)

ASIATOX Councilor 田口 恵子、小椋 康光、

広瀬 明彦、熊谷 嘉人、菅野 純

○ 日本学術会議

日本学術会議担当 石塚 真由美 (北海道大学)

毒性学学科委員 菅野 純、石塚 真由美、小椋 康光

○ SOT

SOT 担当 小野 竜一 (国立医薬品食品衛生研究所)、西村
拓也 (国立医薬品食品衛生研究所)

○ KSOT

KSOT 担当 黄 基旭 (東北医科薬科大学)

○ 日本中毒学会

日本中毒学会担当 北嶋 聡 (国立医薬品食品衛生研究所)

○ 日本毒性病理学会

日本毒性病理学会担当 古川 賢 (日産化学 (株))

○ 日本免疫毒性学会

日本免疫毒性学会担当 西村 泰光 (川崎医科大学)

○ 日本薬理学会

日本薬理学会担当 安西 尚彦 (千葉大学)

○ 日本内分泌攪乱物質学会

日本内分泌攪乱物質学会担当 菅野 純

(国立医薬品食品衛生研究所)

3. 学術年会長について

一般社団法人日本毒性学会の日本毒性学会学術年
会の学術年会長は、以下の通り。

● 第 51 回日本毒性学会学術年会の学術年会長

上原 孝 (岡山大学大学院医師薬学総合研究科薬
効解析学)

● 第 52 回日本毒性学会学術年会の学術年会長

黄 基旭 (東北医科薬科大学薬学部)

● 第 53 回日本毒性学会学術年会の学術年会長

宮脇 出 (住友ファーマ (株))

● 第 54 回日本毒性学会学術年会の学術年会長

安西 尚彦 (千葉大学大学院)

4. 事務局 (2024 年 4 月 30 日現在)

〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋 1-1-1 パレスサ
イドビル

(株) 毎日学術フォーラムに事務委託

以上

(資料 2)

一般社団法人 日本毒性学会 2024年度収支計算書

(2024 年 5 月 1 日～ 2025 年 4 月 30 日)

(単位：円)

	2024 年度予算	2024 年度決算	差異 (決算 - 予算)	備 考
[経常収入の部]				
1. 会費収入	26,060,000	27,214,000	1,154,000	
一般会員会費収入	16,180,000	17,457,000	1,277,000	当年度 9,000 円× 1,818 名 + 過年度分
評議員会費収入	4,040,000	4,011,000	△ 29,000	当年度 12,000 円× 329 名 + 過年度分
学生会員収入	510,000	516,000	6,000	当年度 3,000 円× 160 名 + 過年度分
賛助会員会費収入	5,330,000	5,230,000	△ 100,000	
2. 機関誌発行事業収入	11,003,500	8,813,392	△ 2,190,108	
科研費収入	0	0	0	
JTS 広告料収入	600,000	564,960	△ 35,040	会誌・パンア広告料
JTS 別刷料・掲載料収入	7,800,000	6,088,350	△ 1,711,650	
JTS 定期購読料収入	200,000	80,000	△ 120,000	
JTSBN 販売収入	3,500	10,500	7,000	
FTS 掲載料収入	2,400,000	2,069,582	△ 330,418	
3. 学術集会事業収入	62,991,000	80,726,258	17,735,258	
学術集会収入	62,991,000	77,653,349	14,662,349	第 51 回年会
学術集会寄付収入	0	3,072,909	3,072,909	
4. 部会事業収入	4,828,000	5,121,275	293,275	
生体金属部会	1,942,000	2,725,843	783,843	
医薬品毒性機序研究部会	1,486,000	1,738,195	252,195	
付加体科学部会	1,400,000	657,237	△ 742,763	
5. 認定事業収入	7,800,000	9,937,000	2,137,000	
認定 TOX 資格収入	4,450,000	5,200,000	750,000	
認定 TOX 総会収入	0	0	0	未開催
基礎教育講習会収入	1,850,000	3,745,000	1,895,000	
生涯教育講習会収入	940,000	464,000	△ 476,000	
毒性評価値設定講習会収入	560,000	528,000	△ 32,000	
6. 補助金収入	500,000	500,000	0	
ファイザー賞賞金収入	500,000	500,000	0	
7. 受取利息	500	58,343	57,843	
8. 雑収入	400,000	1,292,547	892,547	著作物複写使用料等
経常収入合計	113,583,000	133,662,815	20,079,815	
[経常支出の部]				
1. 機関誌発行事業支出	11,650,000	9,815,867	△ 1,834,133	
JTS 会誌発行費	8,000,000	7,869,370	△ 130,630	VOL.49 △ 4・5・6 ～ VOL.50 △ 1・2・3(合併号) VOL.49 △ 4・5・6 ～ VOL.49 △ 7・8・9(合併号)
JTS 会誌送付費	350,000	197,270	△ 152,730	
FTS 編集費	1,500,000	1,749,227	249,227	
関連諸経費	1,800,000	0	△ 1,800,000	
2. 表彰事業支出	2,735,000	3,112,200	377,200	
ファイザー賞支出	500,000	519,850	19,850	賞金・楯
田邊賞支出	750,000	768,080	18,080	賞金・楯
学会賞・特別賞・奨励賞支出	1,041,000	1,277,430	236,430	賞金・楯
技術賞支出	324,000	332,340	8,340	賞金・楯
記念品費	120,000	214,500	94,500	
3. 学術集会事業支出	65,191,000	77,653,349	12,462,349	
学術集会支出	62,991,000	77,653,349	14,662,349	第 51 回学術年会
学術集会補助金	2,200,000	0	△ 2,200,000	第 51 回学術年会
4. 部会事業支出	5,754,400	5,168,103	△ 586,297	
部会活動支出	4,854,400	4,268,103	△ 586,297	
生体金属部会	1,942,000	2,174,700	232,700	
医薬品毒性機序研究部会	1,512,400	1,604,279	91,879	
付加体科学部会	1,400,000	489,124	△ 910,876	
補助金支出	900,000	900,000	0	300,000 円× 3
5. 認定事業支出	4,040,000	3,433,238	△ 606,762	
認定 TOX 資格支出	2,120,000	2,023,914	△ 96,086	
認定 TOX 総会支出	0	0	0	
基礎教育講習会支出	1,240,000	782,946	△ 457,054	
生涯教育講習会支出	680,000	210,024	△ 469,976	
毒性評価値設定講習会支出	0	416,354	416,354	
6. 各種委員会事業支出	3,959,500	2,359,410	△ 1,600,090	
総務委員会	1,050,000	804,781	△ 245,219	会議費等
財務委員会	276,700	51,300	△ 225,400	会議費等
編集委員会	50,000	357,129	307,129	会議費等
教育委員会	2,332,800	1,146,200	△ 1,186,600	SOT 派遣等
学術広報委員会	250,000	0	△ 250,000	会議費等
その他関連委員会	0	0	0	
7. 関連団体連携事業費	6,620,000	7,365,146	745,146	
負担金・年会費・業務費用	3,870,000	3,837,268	△ 32,732	IUTOX2021 分担金、日本学術協力財団年会費他
国際学会 SOT 経費	0	1,852,041	1,852,041	
シンポジウム拠出金	2,750,000	1,675,837	△ 1,074,163	第 51 回学術年会時シンポジウム
8. 管理費	22,180,664	20,358,152	△ 1,822,512	
会議費	1,079,364	748,152	△ 331,212	WebEX アカウント利用料・開催費等
旅費交通費	1,150,000	1,191,948	41,948	理事会等
通信費	350,000	237,695	△ 112,305	
印刷費	320,000	232,165	△ 87,835	
消耗品費	60,000	71,095	11,095	
選挙関係費	750,000	348,592	△ 401,408	
事務委託費	12,000,000	12,127,040	127,040	
HP 更新・管理費	2,188,800	2,264,900	76,100	
支払手数料	1,000,000	1,131,993	131,993	決済手数料、振込手数料等
支払報酬料	1,182,500	1,182,500	0	公認会計士他報酬料
雑費	600,000	237,072	△ 362,928	保管料等
租税公課	1,500,000	585,000	△ 915,000	法人税・消費税等
9. 貸倒損失	0	0	0	
経常支出合計	122,130,564	129,265,465	7,134,901	
経常収支差額	△ 8,547,564	4,397,350	12,944,914	
前期繰越収支差額	129,093,263	129,093,263	0	
次期繰越収支差額	120,545,699	133,490,613	12,944,914	

(資料 3)

貸借対照表
 (2025 年 4 月 30 日現在)

借方		貸方	
勘定科目	金額	勘定科目	金額
流動資産	146,783,793	流動負債	13,293,180
現金	0	未払金	5,748,180
預金	140,240,900	前受金	662,000
未収金	476,417	前受会費	6,313,000
前払金	2,616,696	仮受金	0
立替金	3,424,780	未払法人税等	70,000
仮払金	25,000	未払消費税等	500,000
		正味財産	133,490,613
		次年度繰越金	133,490,613
		前期繰越金	129,093,263
		当期収支差額	4,397,350
資産合計	146,783,793	負債・正味財産合計	146,783,793

(資料 4)

財産目録
 (2025 年 4 月 30 日現在)

資産		負債	
勘定科目	摘要	勘定科目	金額
流動資産		流動負債	
現金	小口現金	未払金	5,748,180
預金	郵便振替預金	前受金	662,000
	みずほ銀行麹町支店	前受会費	6,313,000
	みずほ銀行麹町支店	仮受金	0
	三井住友銀行神田支店	未払法人税等	70,000
	みずほ銀行麹町支店	未払消費税等	500,000
	ゆうちょ銀行	正味財産	133,490,613
	三菱 UFJ 銀行	次年度繰越金	133,490,613
	中国銀行	前期繰越金	129,093,263
合計		当期収支差額	4,397,350
未収金	2024 年度 JTS 別刷・掲載料	負債・正味財産合計	146,783,793
	2024 年度 FTS 別刷・掲載料		
	2024 年度広告料		
合計			
前払金	第 52 回学術年会補助金		
	ASIATOX2025 年度年会費 \$2,800(1 ドル 148.82 円)		
合計			
立替金	第 52 回学術年会 会場費 沖縄コンベンションセンター		
	第 54 回学術年会 会場使用料		
合計			
仮払金	ASIATOX 口座使用時の海外送金手数料の一時立替 2024.4.19 分		
	ASIATOX 口座使用時の海外送金手数料の一時立替 2025.3.12 分		
合計			
資産合計			
流動負債			
未払金	2022 年度計上委員会旅費	支払不足分 1 名	100
	4/17 田邊賞選考小委員会	旅費 2 名	52,216
	4/17 認定試験小委員会	旅費 5 名	38,038
	4.24JTS/FTS 編集委員会	旅費 1 名	56,220
	SOT 経費立替分	1 名	247,283
	JTS 発行費他	㈱センキョウ	3,228,617
	4 月業務委託費他	㈱毎日学術フォーラム	1,397,836
	基礎教育講習会 動画修正費	㈱チームエムツー	33,000
	2024 年度記帳代行・決算報酬等	馬日事務所	694,870
合計			5,748,180
前受金	第 25 回生涯教育講習会参加費 認定 TOX 事前 9 名		54,000
	第 25 回生涯教育講習会参加費 事前 会員 6 件		54,000
	第 25 回生涯教育講習会参加費 事前 非会員 3 件		54,000
	2025 年度ファイザー賞賞金		500,000
合計			662,000
前受会費	次年度以降年会費		6,313,000
合計			6,313,000
仮受金			0
合計			0
未払法人税等	2024 度未払法人税等 概算		70,000
未払消費税等	2024 度未払消費税等 概算		500,000
流動負債合計			13,293,180

(資料 8)

一般社団法人日本毒性学会 2025年度事業計画書**1. 学術集会・講習会の開催**

- (1) 第 52 回日本毒性学会学術年会
2025 年 7 月 2 日～7 月 4 日
沖縄コンベンションセンター
年会長：黄 基旭
(東北医科薬科大学)
- (2) 第 26 回生涯教育講習会
2025 年 7 月 1 日
沖縄県市町村自治会館 2F ホール
- (3) 第 28 回基礎教育講習会 (2025 年度事業分)
2025 年 4 月 23 日～2026 年 3 月 31 日
オンデマンド動画配信
- (4) 毒性評価値設定講習会
開催日未定

2. 認定試験の実施

- (1) 第 28 回日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験
2025 年 10 月 26 日 昭和大学 旗の台キャンパス
※予備日：11 月 9 日

3. 学会誌・その他の刊行物の刊行

- (1) The Journal of Toxicological Sciences
50 巻 5 号～51 巻 4 号, Supplement
- (2) Fundamental Toxicological Sciences
12 巻 3 号～13 巻 2 号
- (3) 毒性学ニュース
50 巻 3 号～51 巻 2 号

4. 賞の授与

- | | |
|--------------------------|-------|
| (1) 2025 年度学会賞 | 1 名以内 |
| (2) 2025 年度特別賞 | 1 名以内 |
| (3) 2025 年度佐藤哲男賞 (国際貢献賞) | 1 名以内 |
| (4) 2025 年度学会貢献賞 | 1 名以内 |
| (5) 2025 年度奨励賞 | 3 名以内 |
| (6) 2025 年度田邊賞 | 4 題以内 |
| (7) 2025 年度ファイザー賞 | 3 編程度 |
| (8) 2025 年度技術賞 | 3 名以内 |

5. 賞の選考

- | | |
|----------------------|-------|
| (1) 2025 年度日化協 LRI 賞 | 1 名以内 |
|----------------------|-------|

6. 国際活動

- (1) IUTOX への活動協力
(ICT2025 および CTDC への活動協力を含む)
- (2) ASIATOX への活動協力
ASIATOX-XI (2026 年、Kuala Lumpur, Malaysia) への参加準備、シンポジウム提案、招待講演者推薦など
- (3) 第 65 回 Society of Toxicology (SOT) 年会 (2026 年 3 月 22 日～25 日、San Diego Convention Center, San Diego, California) への参加
- (4) SOT との連携強化
第 65 回 SOT へ学会員を派遣
第 65 回 SOT での SOT との合同企画
第 52 回学術年会での SOT との合同企画
- (5) KSOT との連携強化
第 52 回学術年会での KSOT との合同企画

7. 広報活動

- (1) 市民公開セミナーの開催
「知って安心! 日常生活に潜む化学物質とその健康影響」
2025 年 7 月 5 日 沖縄タイムスビル 3F 「タイムスホール」
- (2) 学会ホームページ (毒性学トピックス解説など) での情報発信
- (3) その他必要な広報活動 (メールマガジンなど)

8. 2025 年度推進事業

- (1) 学会主催・共催等シンポジウムの開催
- (2) 部会活動
- (3) 学会協賛シンポジウムの開催
- (4) 日本学術会議毒性学分科会活動の推進
- (5) 日本薬系学会連合への参画

9. その他目的を達成するために必要な事業として、下記の委員会活動を行う。

常置委員会
(総務委員会、財務委員会、編集委員会、教育委員会、学術広報委員会)

以上

(資料 9)

一般社団法人 日本毒性学会 2025 年度予算書案

(2025 年 5 月 1 日～ 2026 年 4 月 30 日)

(単位：円)

	2024 年度予算案①	2025 年度予算案②	差異 (②△①)
[経常収入の部]			
1. 会費収入	26,060,000	26,362,000	302,000
一般会員会費収入	16,180,000	16,500,000	320,000
評議員会費収入	4,040,000	3,970,000	△ 70,000
学生会員収入	510,000	562,000	52,000
賛助会員会費収入	5,330,000	5,330,000	0
2. 機関誌発行事業収入	11,003,500	11,500,000	496,500
科研費収入	0	0	0
JTS 広告料収入	600,000	600,000	0
JTS 別刷料・掲載料収入	7,800,000	8,200,000	400,000
JTS 定期購読料収入	200,000	0	△ 200,000
JTSBN 販売収入	3,500	0	△ 3,500
FTS 掲載料収入	2,400,000	2,700,000	300,000
3. 学術年会事業収入	62,991,000	60,102,000	△ 2,889,000
学術年会収入	62,991,000	60,102,000	△ 2,889,000
学術年会寄付収入	0	0	0
4. 部会事業収入	4,828,000	4,362,000	△ 466,000
部会活動収入			0
生体金属部会収入	1,942,000	2,190,000	248,000
医薬品毒性機序研究部会収入	1,486,000	1,072,000	△ 414,000
付加体科学部会収入	1,400,000	1,100,000	△ 300,000
5. 認定事業収入	7,800,000	8,738,000	938,000
認定 TOX 資格収入	4,450,000	4,450,000	0
認定 TOX 総会収入	0	0	0
基礎教育講習会収入	1,850,000	2,950,000	1,100,000
生涯教育講習会収入	940,000	810,000	△ 130,000
毒性評価値設定講習会収入	560,000	528,000	△ 32,000
6. 補助金収入	500,000	500,000	0
ファイザー賞賞金収入	500,000	500,000	0
7. 受取利息	500	500	0
8. 雑収入	400,000	400,000	0
経常収入合計	113,583,000	111,964,500	△ 1,618,500
[経常支出の部]			
1. 機関誌発行事業支出	11,650,000	11,500,000	△ 150,000
JTS 会誌発行費	8,000,000	5,800,000	△ 2,200,000
JTS 会誌発送費	350,000	0	△ 350,000
FTS 編集費	1,500,000	2,100,000	600,000
関連諸経費	1,800,000	3,600,000	1,800,000
2. 表彰事業支出	2,735,000	2,990,000	255,000
ファイザー賞支出	500,000	500,000	0
田邊賞支出	750,000	750,000	0
学会賞・特別賞・奨励賞・ 佐藤哲男記念賞・学会貢献賞支出	1,041,000	1,290,000	249,000
技術賞支出	324,000	330,000	6,000
記念品費	120,000	120,000	0
3. 学術年会事業支出	65,191,000	65,170,860	△ 20,140
学術年会支出	62,991,000	62,970,860	△ 20,140
学術年会補助金	2,200,000	2,200,000	0
4. 部会事業支出	5,754,400	5,282,800	△ 471,600
生体金属部会支出	1,942,000	2,210,800	268,800
医薬品毒性機序研究部会支出	1,512,400	1,072,000	△ 440,400
付加体科学部会支出	1,400,000	1,100,000	△ 300,000
部会補助金	900,000	900,000	0
5. 認定事業支出	4,040,000	5,220,000	1,180,000
認定 TOX 資格支出	2,120,000	2,220,000	100,000
認定 TOX 総会支出	0	0	0
基礎教育講習会支出	1,240,000	1,440,000	200,000
生涯教育講習会支出	680,000	1,560,000	880,000
毒性評価値設定講習会支出	0	0	0
6. 各種委員会事業支出	3,959,500	4,159,500	200,000
総務委員会	1,050,000	1,022,000	△ 28,000
財務委員会	276,700	276,700	0
編集委員会	50,000	50,000	0
教育委員会	2,332,800	2,560,800	228,000
学術広報委員会	250,000	250,000	0
その他関連委員会	0	0	0
7. 関連団体連携事業費	6,620,000	7,230,000	610,000
負担金・年会費・業務費用	3,870,000	4,650,000	780,000
シンポジウム拠出金	2,750,000	2,580,000	△ 170,000
8. 管理費	22,180,664	20,482,500	△ 1,698,164
会議費	1,079,364	840,000	△ 239,364
旅費交通費	1,150,000	1,190,000	40,000
通信費	350,000	400,000	50,000
印刷費	320,000	320,000	0
消耗品費	60,000	60,000	0
選挙関係費	750,000	750,000	0
事務委託費	12,000,000	12,000,000	0
HP 更新・管理費	2,188,800	640,000	△ 1,548,800
支払手数料	1,000,000	1,000,000	0
支払報酬料	1,182,500	1,182,500	0
雑費	600,000	600,000	0
租税公課	1,500,000	1,500,000	0
経常支出合計	122,130,564	122,035,660	△ 94,904
当期収支差額	△ 8,547,564	△ 10,071,160	△ 1,523,596
前期繰越収支差額	133,490,613	133,490,613	0
次期繰越収支差額	120,545,699	123,419,453	2,873,754

(資料 10)

2025 年度日本毒性学会 新名誉会員一覧

(敬称略)

氏 名	所 属
中村 和市	北海道大学・東京科学大学
眞鍋 淳	第一三共 (株)

(資料 10)

2025 年度日本毒性学会 新功労会員一覧

(敬称略)

氏 名	所 属
熊谷 嘉人	九州大学
渋谷 淳	東京農工大学名誉教授

(資料 11)

2025 年度日本毒性学会 名誉トキシコロジスト一覧

(敬称略)

氏 名	所 属
赤沼 三恵	(株) クレハ
朝波 省吾	(株) 大塚製薬工場
菅原 正喜	フェリング・ファーマ株式会社
竹川 潔	メディフォード株式会社
田中 剛太郎	
田中 亮太	一般財団法人 食品薬品安全センター
田畑 肇	
中川 一平	国立感染症研究所
務台 衛	メディフォード株式会社

(資料 12)

2025年度日本毒性学会 新評議員一覧

(五十音順敬称略)

氏 名	現 職
秋山 雅博	昭和大学
井澤 武史	大阪公立大学
岩田 良香	中外製薬 (株)
清野 正子	北里大学薬学部
久保田 彰	北海道国立大学機構 帯広畜産大学
児玉 篤史	日本ベーリンガーインゲルハイム (株)
座間味 義人	岡山大学病院
高倉 郁朗	キッセイ薬品工業 (株)
高根沢 康一	北里大学薬学部
武田 一貴	北里大学
千葉 克芳	第一三共 (株)
辻 暁司	大正製薬 (株)
本田 晶子	京都大学大学院工学研究科
本多 正樹	中外製薬 (株)
光本 明日香	昭和大学
宮下 泰志	科研製薬 (株)
吉川 哲也	(株) 新日本科学

第52回日本毒性学会学術年会報告

第52回日本毒性学会学術年会の開催に際しましては、会員各位並びに関係者各位のご協力によりまして、盛会のうちに終えることができました。心より厚く御礼申し上げます。

以下に本学術年会の概要をご報告いたします。

年会長 黄 基旭
(東北医科薬科大学)

副年会長 平良 淳誠
(国立沖縄工業高等専門学校)

1. 会 期

2025年7月2日(水)～4日(金)
(第22回市民公開セミナー:7月5日(土))

2. 会 場

沖縄コンベンションセンター

3. 特別企画

特別講演:1
教育講演:2
Invited Lecture:5
シンポジウム:42
ワークショップ:6
若手企画ワークショップ:2
市民公開セミナー:1

4. 一般演題

口演:44題
ポスター:486題
(うち優秀研究発表賞応募演題37題,
学生ポスター発表賞応募演題102題)

5. 参加者数

年会:1,617名(招待者含む)
市民公開セミナー:40名

6. 優秀研究発表賞受賞者

P-4E 石井 裕也
(塩野義製薬株式会社)
in vitro 肝障害パネル評価を活用した臨床肝障害
予測モデルの構築

P-19E 衣斐 彼方

(科研製薬株式会社 新薬創生センター 薬物動態・安全性部 安全性グループ)

ラットの摘出精巢を用いたアゾール系化合物の
雄性ホルモン産生への影響評価

P-37E 藤原 悠基

(群馬大学大学院医学系研究科応用生理学分野)
甲状腺ホルモン変換酵素 DIO2 を介したペルフル
オロオクタンスルホン酸 (PFOS) による新たな
発達神経毒性メカニズム

P-68E 高島 隼人

(東北大学大学院薬学研究科代謝制御薬学分野)
メチル水銀によるセレン代謝阻害と PRDX6 を介
したフェロトシス感受性制御

P-108E 清水 庸平

(花王株式会社)
新奇高感度検出試薬を用いた微量皮膚感作性物
質のリスク評価と感作源特定を目指した代替法
開発

7. 学生ポスター発表賞受賞者

P-3S 岡本 雄揮

(東京大学大学院 農学生命科学研究科)
代謝機能障害関連脂肪性肝炎 (MASH) に続発
する肝性骨異栄養症の発症機序の解明

P-8S 深松 美咲

(北里大学 獣医学部獣医学科)
リトコール酸骨格を持つ新規ビタミンD受容体
アゴニスト Dcha-20 の殺鼠効果及び毒性発現機
序の探索

P-22S 加来 建之

(東北大学農学研究科動物生殖科学分野)
生後発達期におけるグルコシネートの急性曝露
が成熟後の脳高次機能に及ぼす影響

P-45S 小島 諒太

(東北大学大学院薬学研究科)
トランス脂肪酸による細胞老化を介した炎症応
答の促進機構

- P-66S 三木 峻平
(岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科)
メチル水銀曝露による精神症状関連部位の障害
- P-86S 大谷 航平
(東北大学大学院薬学研究科)
フェリチノファジーを利用した新規癌治療戦略の構築
- P-87S 高橋 建也
(東北大学大学院薬学研究科)
悪性脳腫瘍グリオブラストーマの予後改善を目指したセレン代謝阻害剤の開発
- P-91S 佐藤 秀亮
(広島大学大学院医系科学研究科)
香害の発症における脳内チトクローム P450 の役割についての解明
- P-118S 全 嫣然
(大阪大学大学院薬学研究科)
胆汁うっ滞型肝毒性の予測を目指した肝臓オルガノイド由来肝細胞の培養条件の最適化
- P-121S 日笠 理公
(岡山理科大学大学院 理工学研究科)
間葉系細胞の多細胞凝集塊を組織床とした *in vitro* 汗腺導管の出芽形成誘導

8. Travel Award 受賞者

- P-162 Jui-Yi HSU
(Taipei Medical University and Academia Sinica)
Structural optimization and biological evaluation of indolin-2-one derivatives as novel CDK8 inhibitors for idiopathic pulmonary fibrosis
- P-213 Manoj Kumar BANIYA
(Keimyung University)
Enhancing blood-brain barrier permeability of terfenadine using albumin-based nanoplatfrom for the therapy of glioblastoma

- P-247 Li-Ting TSAI
(National Taiwan University)
Zinc protoporphyrin accumulation triggers ferroptosis, contributing to the progression of chronic kidney disease
- P-265 Woo Kown JUNG
(Korea Institute of Toxicology)
Impact of polyethylene glycol content on aerosol properties and inhalation toxicity of hydramethylnon mixtures
- P-305 Jihyun YU
(Korea University)
Evaluating the carcinogenic potential of polyhexamethylene guanidine-phosphate using a cell transformation assay
- P-357 Hye-In PARK
(Kyungshung University)
Mechanistic study of cell death in bronchial epithelial cells induced by pyrethroid insecticides
- P-377 Hyeong Ryeol CHO
(Korea Institute of Toxicology)
Diclofenac-induced Rnd1 overexpression disrupt kidney tubular integrity via actin cytoskeleton destabilization

- P-486 Da Hyeon PARK
(Sungkyunkwan University)
Dendropanoxide attenuates cadmium-induced hepatotoxicity via Nrf2-mediated antioxidant, anti-inflammatory, and anti-apoptotic mechanisms

9. 協賛

企業（団体）展示：87 社・団体
ランチョンセミナー：17 セミナー
広告掲載（要旨集、ホームページ等）：30 社・団体
協賛企業・団体：56 社・団体

第52 回日本毒性学会学術年会要旨集の販売について

第 52 回日本毒性学会学術年会の要旨集（日本語版または英語版）を 3,500 円（税・送料込）で販売します。ご希望の方は郵便局に備付けの郵便振替用紙に必要事項をご記入の上、下記口座までお振り込み下さい。ご納入確認後、要旨集を発送致します。

なお、学術年会（第 32 回以降）の要旨はオンライン（J-STAGE）でも閲覧が可能です。

振込先：口座番号	00150-9-426831
加入者名	一般社団法人日本毒性学会
要旨集価格	3,500 円（日本語版または英語版 各 1 部）

通信欄記入事項：①住所②氏名（団体の場合は機関名・部署等）③電話番号
④第 52 回学術年会要旨集希望の旨（記入例：日本語版 1 部希望）

※通信欄のご記入住所へ送付いたします。詳細なご記入をお願いいたします。

問い合わせ先：一般社団法人 日本毒性学会
〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋 1-1-1
パレスサイドビル
（株）毎日学術フォーラム
TEL：03-6267-4550 FAX：03-6267-4555
E-mail：jsothq@jsot.jp

第53回日本毒性学会学術年会のご案内（第2報）

（年会ホームページ：<https://www.jsot2026.jp/>）

1. 会 期

2026年7月1日（水）～3日（金）

2. 会 場

グランキューブ大阪（大阪府立国際会議場）

〒530-0005 大阪市北区中之島5丁目3-51

TEL：06-4803-5555

URL：<https://www.gco.co.jp/>

3. テーマ

Evolving Toxicology

—多彩な学識の交差点から生まれる知の革新

Innovation Emerging from the Confluence of Diverse Fields

4. 年会長

宮脇 出

（住友ファーマ株式会社）

5. 企画委員（敬称略・五十音順）

上原 孝（岡山大学）

諫田 泰成（国立医薬品食品衛生研究所）

北嶋 聡（国立医薬品食品衛生研究所）

栗林 正伯（小野薬品工業（株））

佐藤 雅彦（愛知学院大学）

篠澤 忠紘（武田薬品工業（株））

鈴木 睦（協和キリン（株））

高橋 祐次（国立医薬品食品衛生研究所）

田口 恵子（東京大学）

角崎 英志（（株）新日本科学）

奈良岡 準（アステラス製薬（株））

中島 美紀（金沢大学）

中西 剛（岐阜薬科大学）

南谷賢一郎（協和キリン（株））

西村 有平（三重大学）

黄 基旭（東北医科薬科大学）

福島 民雄（塩野義製薬（株））

古川 賢（日産化学（株））

本多 正樹（中外製薬（株））

三ヶ島史人（医薬品医療機器総合機構）

水野 忠快（東京大学）

山本 千夏（東邦大学）

吉成 浩一（静岡県立大学）

6. 一般演題募集

一般演題（口演およびポスター発表）は、2026年1月21日（水）より受付開始予定です。

発表は会員のみとなりますので非会員の方は、日本毒性学会事務局にて入会の手続きをお願いします。

日本毒性学会ホームページ：<https://www.jsot.jp>

なお、ポスターとスライド作成は、原則英語となります。

7. 優秀研究発表賞応募演題

2026年3月31日時点で40歳以下の方を対象として候補者を募集します。

8. 学生ポスター発表賞応募演題

学術年会（2026年7月1日（水））の時点で学生（大学院生を含む。ただし社会人大学院生は除く。）のポスター発表（筆頭著者）の方を対象として候補者を募集します。

※7、8の賞への重複申請は不可とします。

9. 特別企画

年会長招待講演，特別講演，教育講演，シンポジウム，ワークショップ，キャリア形成支援プログラム，市民公開セミナー，高校生向けコンテストを企画予定です。

10. 情報交換会

以下の通り情報交換会を開催する予定です。是非ご参加ください。

日程：2026年7月2日（木）

会場：リーガロイヤルホテル大阪

URL：<https://www.rihga.co.jp/osaka>

詳細は年会ホームページにてご案内いたします。

11. ランチョンセミナーなどの募集

ランチョンセミナー，広告掲載，企業・関連団体展示を募集します。詳細は年会ホームページにてご案内いたします。

12. 参加登録と演題申込

学術年会ホームページからのオンライン登録となります。

詳細は年会ホームページにてご案内いたします。

演題登録

2026 年 1 月 21 日（水）～ 3 月 4 日（水）（予定）

事前参加登録

2026 年 1 月 21 日（水）～ 5 月 15 日（金）（予定）

13. 託児室

本年会では、参加者が無料で利用できる託児室を設ける予定です。

詳細は年会ホームページにてご案内いたします。

14. 年会事務局

〒 554-0022 大阪市此花区春日出中 3-1-98

住友ファーマ株式会社 前臨床研究ユニット

事務局長：臼井 亨（住友ファーマ株式会社）

事務局：宮内 慎（株式会社ファイントゥデイ）

近藤 美和（住友化学株式会社）

E-mail: secretariat@jsot2026.jp

2026年度日本毒性学会 特別賞 候補者推薦要領

社会における毒性学の認知度の向上, 発展, 充実に大きく貢献した非会員の研究者に日本毒性学会特別賞を授与する。

候補者の資格: 日本毒性学会非学会員

推薦者の資格: 日本毒性学会理事

表彰: 授賞者数は毎年, 最大1名とし, 賞状および副賞を授与する。授賞式は当該年度の日本毒性学会学術年会の総会終了後に行う。

受賞講演: 受賞者（あるいは代理人）は当該年度の日本毒性学会学術年会にて受賞講演を行う。

候補者の推薦: 理事1名の推薦を必要とする。推薦者は, 受賞候補者に関する下記事項を所定用紙に記入し, 日本毒性学会理事長宛（事務局）に電子メールで提出する。なお, 所定用紙（Word ファイル）は日本毒性学会ホームページ（<https://www.jsot.jp/award/special.html>）からダウンロードして使用すること。

- ・推薦書（候補者氏名, 授賞タイトルを所定の用紙に記入したもの）
- ・推薦理由（1,000字以内）
- ・特別賞の対象となる業績目録：原著論文, 総説・著書, 学会主催, 発表等

推薦書類の送付先: jsotq@jsot.jp（日本毒性学会事務局）

推薦締切: 2025年12月31日（水）

2026年度日本毒性学会 学会賞 候補者推薦要領

毒性学に関連する顕著な研究業績をあげ、かつ日本毒性学会の発展充実に大きく貢献した本会会員に日本毒性学会学会賞を授与する。

候補者の資格：現に10年以上継続して日本毒性学会の会員であり、授賞年度の4月1日に満65歳以下である者。ただし、推薦される研究課題で既に他学会等の賞を受けている者は対象とならない。

推薦者の資格：日本毒性学会評議員

表彰：授賞者数は毎年1名とし、賞状および副賞を授与する。授賞式は当該年度の日本毒性学会学術年会の総会終了後に行う。

受賞講演：受賞者は当該年度の日本毒性学会学術年会にて受賞講演を行う。

候補者の推薦：評議員1名の推薦を必要とする。推薦者は、受賞候補者に関する下記事項を所定用紙に記入し、日本毒性学会理事長宛（事務局）に電子メールで提出する。なお、所定用紙（Word ファイル）は日本毒性学会ホームページ（<https://www.jsot.jp/award/index.html>）からダウンロードして使用すること。

- ・推薦書（候補者氏名、略歴、会員歴等を所定の用紙に記入したもの）
- ・推薦理由（2,000字以内）
- ・学会賞の対象となる業績目録：原著論文（J. Toxicol. Sci. または Fundam. Toxicol. Sci. 掲載論文に丸印を付ける）、総説・著書
- ・過去5年間に日本毒性学会学術年会で発表した一般演題リスト（共同著者の演題を含む）

推薦書類の送付先：jsot_hq@jsot.jp
（日本毒性学会事務局）

推薦締切：2025年12月31日（水）

2026年度日本毒性学会 佐藤哲男賞（国際貢献賞） 候補者推薦要領

毒性学に関連する顕著な研究業績をあげ、かつ日本毒性学会の発展充実に大きく貢献した本会会員に日本毒性学会佐藤哲男賞（国際貢献賞）を授与する。

候補者の資格：現に10年以上継続して日本毒性学会の会員であるもの。ただし、推薦される研究課題で既に他学会等の賞を受けているものは対象とならない。

推薦者の資格：日本毒性学会評議員

表彰：授賞者数は毎年、最大1名とし、賞状および副賞を授与する。授賞式は当該年度の日本毒性学会学術年会の総会終了後に行う。

受賞講演：受賞者（あるいは代理人）は当該年度の日本毒性学会学術年会にて受賞講演を行う。

候補者の推薦：評議員1名の推薦を必要とする。推薦者は、受賞候補者に関する下記事項を所定用紙に記入し、日本毒性学会理事長宛（事務局）に電子メールで提出する。なお、所定用紙（Word ファイル）は日本毒性学会ホームページ（<https://www.jsot.jp/award/satou.html>）からダウンロードして使用すること。

- ・推薦書（候補者氏名、授賞タイトルを所定の用紙に記入したもの）
- ・推薦理由（1,000字以内）
- ・佐藤哲男賞（国際貢献賞）の対象となる業績目録：原著論文、総説・著書、学会主催、発表等

推薦書類の送付先：jsotq@jsot.jp
（日本毒性学会事務局）

推薦締切：2025年12月31日（水）

2026年度日本毒性学会 学会貢献賞 候補者推薦要領

本会における学会活動の貢献に敬意を表し、日本毒性学会の発展充実に大きく貢献した本会会員に授与する。

候補者の資格：現に20年以上継続して日本毒性学会の会員である者。

推薦者の資格：日本毒性学会評議員

表彰：授賞者数は毎年1名とし、賞状および副賞を授与する。授賞式は当該年度の日本毒性学会学術年会の総会終了後に行う。

候補者の推薦：評議員1名の推薦を必要とする。推薦者は、受賞候補者に関する下記事項を所定用紙に記入し、日本毒性学会理事長宛（事務局）に電子メールで提出する。なお、所定用紙（Word ファイル）は日本毒性学会ホームページ（<https://www.jsot.jp/award/academic.html>）からダウンロードして使用すること。

- ・推薦書（候補者氏名、略歴、会員歴、本会における委員等の職歴等を所定の用紙に記入したもの）
- ・推薦理由（2,000字以内）
- ・学会貢献賞の対象となる業績目録：学会の活動に貢献した具体的な業績

推薦書類の送付先：jsotq@jsot.jp
（日本毒性学会事務局）

推薦締切：2025年12月31日（水）

2026年度日本毒性学会 奨励賞 候補者推薦要領

毒性学に関する研究において独創的な研究業績をあげつつあり、将来が期待される本会会員に日本毒性学会奨励賞を授与する。

候補者の資格：現に3年以上継続して日本毒性学会の会員であり、授賞年度の4月1日に満40歳以下である者。ただし、推薦される研究課題で既に他学会等の賞を受けている者は対象とならない。

推薦者の資格：日本毒性学会評議員

表彰：授賞者数は毎年3名以内とし、賞状および副賞を授与する。授賞式は当該年度の日本毒性学会学術年会の総会終了後に行う。

受賞講演：受賞者は当該年度の日本毒性学会学術年会にて受賞講演を行う。

候補者の推薦：評議員1名の推薦を必要とする。推薦者は、受賞候補者に関する下記事項を所定用紙に記入し、日本毒性学会理事長宛（事務局）に電子メールで提出する。なお、所定用紙（Word ファイル）は日本毒性学会ホームページ（<https://www.jsot.jp/award/encourage.html>）からダウンロードして使用すること。

- ・推薦書（候補者氏名、略歴、会員歴等を所定の用紙に記入したもの）
- ・推薦理由（2000字以内）
- ・奨励賞の対象となる業績の目録：原著論文（J. Toxicol. Sci. または Fundam. Toxicol. Sci. 掲載論文に丸印を付ける）、総説・著書
- ・過去3年間に日本毒性学会学術年会で発表した一般演題リスト（共同著者となっている演題を含む）

推薦書類の送付先：jsothq@jsot.jp
（日本毒性学会事務局）

推薦締切：2025年12月31日（水）

日本毒性学会教育委員会からのお知らせ（第5報）

教育委員会の各種事業は下記の要領で実施する予定です。詳細は決まり次第、学会ホームページおよび毒性学ニュースでお知らせします。

なお、学会主催講習会は、トキシコロジーに関する知識（基礎知識）を幅広く学習する基礎教育講習会とトキシコロジストとしての知識をアップデート・ブラッシュアップする生涯教育講習会として位置付けすることを基本方針として開催いたします。

「第28回日本毒性学会基礎教育講習会」

本講習会はトキシコロジストの体系的な基礎教育あるいは再教育を目的としております。また、トキシコロジー全般にわたる理解を深めたうえで、日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験受験にお役立て下さい。講習は動画配信形式で行います。

1. 日 時

2026年3月31日（火）まで

2. 形 式

オンデマンド動画配信

3. 申 込

個人契約：終了しました。

団体契約：通年受付しております。

※学会ホームページ内、基礎教育講習会ページより、お申込みください。

4. 受講料

団体契約：25,000円

※領収書につきましては、参加証と一緒に送付いたします。宛名のご指定がある場合は、申込時に入力下さい。

※ダウンロード映像、資料の二次利用は固くお断りいたします。

「団体契約について」

同一企業あるいは団体に所属する複数名が同時に受講する場合にお申込み下さい。

本契約での動画視聴は、団体内での体系的な毒性学教育目的（新人／キャリア研修など）や大学等の教育機関での利用を想定しています。団体契約は代表者個人（毒性学会会員に限る）が申し込み、年間（年度）視聴権を得ます。代表者同席のもと複数名が同

時視聴することを認めます（研修や講義のサポート教材としての利用を想定）。

※本契約で受講された場合は、受講証明書は発行されません。

認定トキシコロジスト試験 受験・更新資格のための評点として加算されませんので、ご注意ください。

「第28回日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験」

我が国の安全性試験の信頼性向上とトキシコロジーの進歩に寄与するため、質の高い専門家を認定するための試験です。今年度の応募は締め切りました。

1. 日 時

2025年11月9日（日）／予備日：11月30日（日）
自然災害等により11月9日に試験開催が困難であると判断した場合に、予備日に実施します。なお、試験開催を延期する場合には、2日前までに受験者へご連絡いたします。

2. 会 場

専修大学 神田キャンパス

「2025年度認定トキシコロジスト資格の更新」

2005年、2010年、2015年、2020年に認定トキシコロジストに認定された方となります。審査結果は、2025年12月頃に通知いたします。

「第6回毒性評価値設定講習会」

本年の講習会では、医薬品の製造工程管理に必要な許容値（PDE）算出の基本的考え方を共有します。PIC/sや医薬品GMPに基づく製造工程管理のため、個別化合物の毒性情報に基づくPDE設定を学び、リスクアセスメント能力を持つトキシコロジストの養成が目的です。基礎から応用まで幅広く取り扱う内容です。

1. 日 時

2025年12月5日（金）13:00-16:00（予定）

2. 形 式

現地・ウェブ上のハイブリット開催

現地：マイナビ PLACE 歌舞伎座タワー
(東京都中央区銀座 4-12-15)

3. 評点

本講習会への参加は、認定トキシコロジスト資格更新、認定試験受験の際の評点（5点）の加算対象です。

4. 申 込

10月中旬開始予定

5. プログラム（仮）

- ・ PDE 設定の概要と事例紹介
- ・ BMD を利用した PoD 選定
- ・ PK/CSAF を考慮した PDE 設定
- ・ 低分子医薬品以外の薬剤の PDE 設定・事例紹介
- ・ 許容値の製造現場での活用
- ・ OEL 設定について
- ・ 全体 QA

米国毒性学会（SOT）教育コースへの派遣者公募

日本毒性学会教育委員会
委員長 土屋 由美

日本毒性学会では、学会員を米国毒性学会（Society of Toxicology, SOT）の学術年会時に開催される教育コース（Continuing Education Courses）に派遣する事業を行っております。本事業の目的は、当学会の次代リーダー候補に研鑽の機会を提供すること、および教育コースの受講成果を当学会に還元させることにより当学会の生涯教育システムの質や情報量を充実させ、学会のレベルアップを図ることにあります。

2025年度は2026年3月22日-25日にサンディエゴにて開催予定のSOT教育コースのセミナーの中から、当委員会が指定するセミナーに計2名を派遣する計画です

1. 対象者

派遣する学会員は以下の条件のいずれかを満たす方とします。

- 1) 会員歴5年以上の正会員（原則45歳以下とする）で、本人以外の当学会評議員の推薦を受けられる方
- 2) 1)に準じる方で、本人以外の当学会評議員の推薦を受けられる方

2. 派遣者への補助

当学会は派遣者に対し1) および2) に充当する費用として一人当たり一律に55万円を補助します。

- 1) 当年のSOTへの参加費用およびSOTの教育セミナー（教育委員会が指定するセミナーと派遣者が選択するセミナー各1コース）への参加費用
- 2) 日本国内の派遣者の居住地とSOT年会開催地間の往復航空運賃および宿泊費、その他旅行傷害保険等の諸経費

3. 派遣者の責務

派遣対象となった方には、以下の責務が求められます。

- 1) 当年のSOT教育セミナーの中から教育委員会が指定するセミナーを受講すること。
- 2) 2026年の当学会主催の生涯教育講習会等で講

師を務め、受講したSOT教育コース、指定セミナーについての内容を報告すること。

4. 選考方法

教育委員会が書類審査により選考を行います。教育委員会で審査し、理事長の決裁をもって決定します。選考結果は、12月末までに応募者宛に郵便および電子メールにてお知らせします。

5. 申込み方法

2025年10月31日（金）までに以下の4点の書類を事務局宛に提出してください（書類の形式は問いません）。郵送あるいは電子メールへの書類添付いずれも受け付けます。郵送の場合は封筒（表）に、電子メールの場合は件名に「SOT教育コース派遣応募」と明記してください。なお、頂いた個人情報、事務局の方で厳重に管理し、派遣者選考のためにのみ使用し、選考者決定後に破棄いたします。

- 1) 申請書〔形式自由、希望するセミナー（AまたはB）を選択して頂くことになります〕
- 2) 履歴書〔生年月日、当学会の会員番号、最終学歴、職歴（業務内容を簡潔に付記してください）、現在の専門分野、学会入会年度〕
- 3) 研究業績一覧（直近5年を中心に記載してください）
- 4) 学会評議員の推薦状

6. 派遣セミナー

下記の2コースの公募を行います。派遣は、各コース1名、計2名といたします。

なお、選考の結果によっては、ご希望の指定セミナーとは異なるコースの受講をお願いする場合がありますことをご承知おきください。

A コース

- ・指定セミナー：[AM 06] Systematic Methods for AOP Development and Application: New Technologies and Tools
- ・自由選択セミナー： 午後に開催される，B コース指定セミナー以外から選択してください。

B コース

- ・指定セミナー：[PM 10] This Is Real: How AI Can Actually Be Used in Hazard and Risk Assessments
- ・自由選択セミナー： 午前に開催される，A コース指定セミナー以外から選択してください。

7. 申込み・問い合わせ先

一般社団法人 日本毒性学会 教育委員会
〒100-0003
東京都千代田区一ツ橋 1-1-1 バレスサイドビル
(株) 毎日学術フォーラム
TEL. 03-6267-4550 / FAX. 03-6267-4555
E-mail : jsotq@jsot.jp

その他のお知らせ

製薬協主催オンラインセミナーシリーズ 開催案内 「非臨床病理学領域におけるデジタル 化・AI 利用：欧州 IMI-BIGPICTURE プロジェクトの現状と今後の展望」

日本製薬工業協会
医薬品評価委員会 基礎研究部会
部会長 鈴木 陸

このたび、製薬協基礎研究部会 AI 病理実装へ向けた課題検討タスクフォース（TF6）では、2 回シリーズのセミナー（2025 年 10 月 15 日及び 11 月 19 日）を開催いたします。

欧州で設立された IMI-BIGPICTURE プロジェクトでは、産官学の連携により病理評価プロセスのデジタル化と AI 活用を推進するためのプラットフォームを構築しています。製薬企業間の協力を基盤に、急速に進展するデジタル化と AI 活用の潮流に対応することを目的としたこのプロジェクトは、日本の非臨床病理学の未来を考えるうえで大いに参考になると考えられます。

ご多忙のこととは存じますが、ご参加をご検討くださいますようお願い申し上げます。

開催案内詳細：https://www.jsot.jp/news/data/related_organizations/20250908.pdf（日本毒性学会 HP トップをスクロールダウンした「関連団体」内に 2025.9.11 付で掲載されています）

開催形式・参加費：ウェブ開催（WebEx）・無料

事前参加登録：各開催日の 1 週間前（水曜日）までに開催案内詳細の【事前参加登録】からご登録ください。

対象者：非臨床病理学のデジタル化・AI 利用にご興味のある方。

開催日時・プログラム

第 1 回 2025 年 10 月 15 日（水）16:00-17:30

BIGPICTURE: Pioneering the Digital Transformation of Pathology through Collaboration (Erio Barale-Thomas, Johnson & Johnson)

Insights into the BIGPICTURE WSI Repository (Anna-Lena Frisk, Johnson & Johnson)

第 2 回 2025 年 11 月 19 日（水）16:00-17:30

Digital Pathology and Artificial Intelligence Applied to Nonclinical Toxicology Pathology - The Current State, Challenges, and Future Directions with Special Emphasis on GLP Requirements (Gabriele Pohlmeier-Esch, Boehringer Ingelheim 及び Charles Halsey, Pfizer)

Scaling AI in Digital Pathology: Foundations,

Applications, and the BIGPICTURE WSI Repository
(Santiago Villalba, Bayer 及び Lisa Schneider, Bayer)

お問い合わせ先

日本製薬工業協会 医薬品評価委員会 基礎研究部会 AI 病理実装へ向けた課題検討タスクフォース（TF6）

E-mail：tf6c.jp@boehringer-ingelheim.com

一般社団法人日本毒性学会の定款および規程類について

日本毒性学会の定款および規程類については、最新版が学会ホームページ (http://www.jsot.jp/about/rule_list.html) に掲載されています。

2022年9月2日付で「研究倫理要綱」と「研究倫理問題に関する規程」が新たに制定されました。学会ホームページでご確認をお願いします。

一般社団法人日本毒性学会 定款

一般社団法人日本毒性学会 研究倫理要綱

一般社団法人日本毒性学会 研究倫理問題に関する規程

一般社団法人日本毒性学会 動物実験に関する指針

一般社団法人日本毒性学会 入会規程

一般社団法人日本毒性学会 賛助会員に関する規程

一般社団法人日本毒性学会 名誉会員・功労会員推薦規程

一般社団法人日本毒性学会 評議員選出規程

一般社団法人日本毒性学会 理事・監事選出規程

一般社団法人日本毒性学会 理事および監事候補の選出に関する細則

一般社団法人日本毒性学会 常置委員会共通規程

一般社団法人日本毒性学会 部会に関する規程

J. Toxicol. Sci. 投稿規程

Fundam.Toxicol.Sci. 投稿規程

一般社団法人日本毒性学会 学会賞選考規程

一般社団法人日本毒性学会 特別賞選考規程

一般社団法人日本毒性学会 佐藤哲男賞（国際貢献賞）選考規程

一般社団法人日本毒性学会 学会貢献賞選考規程

一般社団法人日本毒性学会 奨励賞選考規程

一般社団法人日本毒性学会 技術賞選考規程

一般社団法人日本毒性学会 田邊賞選考規程

一般社団法人日本毒性学会 ファイザー賞選考規程

一般社団法人日本毒性学会 日化協 LRI 賞選考規程

一般社団法人日本毒性学会 認定トキシコロジストの認定制度規程

一般社団法人日本毒性学会 認定トキシコロジストの資格更新に関する細則

一般社団法人日本毒性学会 名誉トキシコロジスト表彰に関する細則

一般社団法人日本毒性学会 米国毒性学会教育コースへの学会員派遣に関する規程

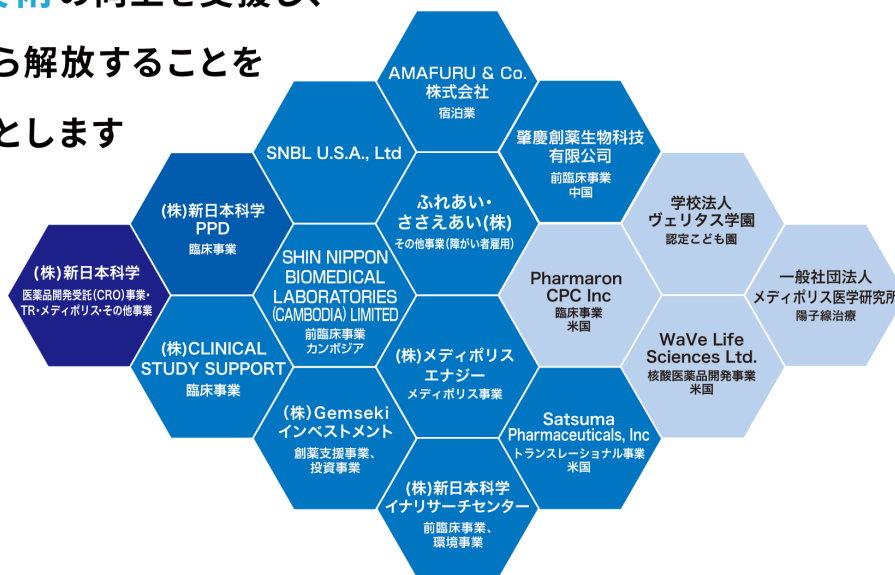
一般社団法人 日本毒性学会 個人情報の適正な管理・利用等に関する基本方針

Shin Nippon Biomedical Laboratories, Ltd.

創薬と医療技術の向上を支援し、

人類を苦痛から解放することを

絶対的な使命とします



(株)新日本科学は60年以上にわたる

豊富な経験と実績に裏付けされた確かな技術力により

質の高いサービスとニーズに合わせたソリューションを提供します



株式会社新日本科学

<https://snbl.com>

mail: info@snbl.com



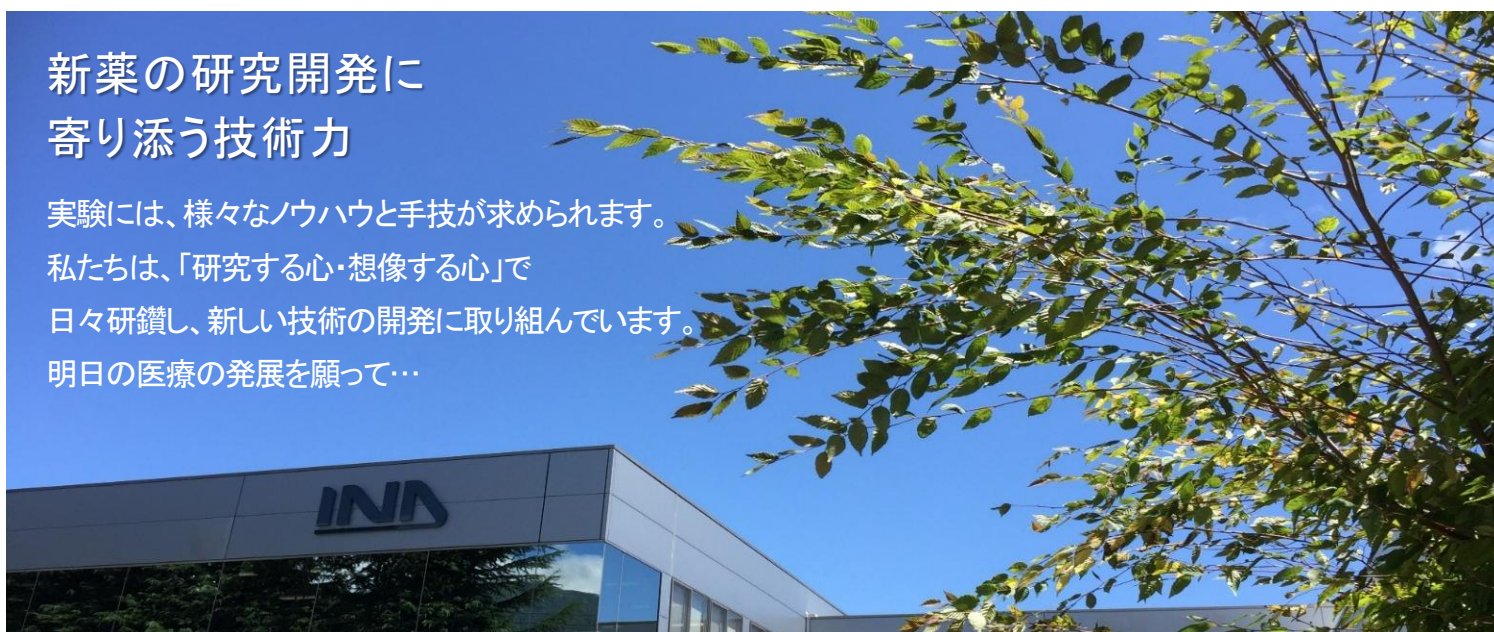
新薬の研究開発に 寄り添う技術力

実験には、様々なノウハウと手技が求められます。

私たちは、「研究する心・想像する心」で

日々研鑽し、新しい技術の開発に取り組んでいます。

明日の医療の発展を願って…



医薬品・医療機器・再生医療等製品の開発支援
各種GLP適合・AAALAC International 完全認証施設

・安全性試験 ・薬効試験 ・各種検査
・臨床試験 ・翻訳サービス ・SENDサービス

株式会社新日本科学イナリサーチセンター

<https://www.ina-research.co.jp>

SLCの実験動物



マウス

●アウトブリード

Slc : ddY
Slc : ICR

●インブリード

DBA/1JmsSlc(コラーゲン薬物誘導関節炎)
BALB/cCrSlc
C57BL/6NcrSlc・C57BL/6JmsSlc(J由来)
C3H/HeSlc
C3H/HeNSlc
C3H/HeYokSlc
DBA/2CrSlc
NZW/NSlc
A/JmsSlc
AKR/NSlc
NC/NgaSlc(薬物・アレルギー誘導アトピー性皮膚炎)
CBA/NSlc
129x1/SvJmsSlc

●B10コンジェニック

C57BL/10SnSlc
B10.A/SgSnSlc・B10.BR/SgSnSlc
B10.D2/nSgSnSlc・B10.S/SgSlc

●ハイブリッド

B6D2F1/Slc(Slc:BDF1)
CB6F1/Slc(Slc:CBF1)
CD2F1/Slc(Slc:CDF1)
B6C3F1/Slc(Slc:B6C3F1)
(NZWx)BXSb)F1/Slc受注生産
※上記以外の系統については御相談ください。

●ヌードマウス(ミュータント系)

BALB/cSlc-*nu*(*Foxn1^{nu}*)
KSN/Slc(*Foxn1^{nu}*)

●疾患モデル

BXSB/MpJmsSlc-*Yaa*(自己免疫疾患)
C3H/HeJmsSlc-*lpr*(自己免疫疾患・*Fas^{lpr}*)
C57BL/6JmsSlc-*lpr*(自己免疫疾患・*Fas^{lpr}*)
MRL/MpJmsSlc-*lpr*(自己免疫疾患・*Fas^{lpr}*)
NZB/NSlc(自己免疫疾患)
NZBWF1/Slc(自己免疫疾患)

WBB6F1/KiI-Ki^{hi}/KiI^{hi}/Slc(肥満細胞欠損貧血・*KiI^{hi}/KiI^{hi}*)

NC/Nga(皮膚炎)
★SAMR1/TaSlc(非胸腺リンパ腫・SAM系対照動物)
★SAMP1/StuSlc(老化アミロイド症)
★SAMP6/TaSlc(老年性骨粗鬆症)
★SAMP8/TaSlc(学習・記憶障害)
★SAMP10/TaldSlc(脳萎縮・うつ様行動)
AKITA/Slc
C57BL/6HamSlc-*ob/ob*(肥満・2型糖尿病・*Lepr^{ob}*)
HIGA/NscSlc(IgA腎症)
B6KOR/StmSlc-Apoe^u(アポE欠損高脂血症・*Apoe^u*)
C.KOR/StmSlc-Apoe^u(アポE欠損高脂血症・*Apoe^u*)

ラット

●アウトブリード

Slc : SD
Slc : Wistar
Slc : Wistar/ST

●インブリード

F344/NSlc
BN/SnSlc
LEW/SnSlc(薬物誘導性関節炎)

●ヌードラット

Slc : Long-Evans-*rnu/rnu*

●疾患モデル

★SHR/Izm(高血圧)
★SHRSP/Izm(脳卒中)
★WKY/Izm(SHR/Izmのコントロール)
★SHRSP/5.Omcr(NAHモデル[HFC飼料給餌])
DIS/EisSlc(食塩感受性高血圧症)
DIR/EisSlc(食塩抵抗性)
Slc : Zucker-*fa/fa*(肥満・*Lepr^{fa}*)
HWY/Slc(ヘアレスラット)

モルモット

●アウトブリード

Slc : Hartley

ウサギ

●アウトブリード

Slc : JW/CSK
Slc : NZW

ハムスター

●アウトブリード

Slc : Syrian

スナネズミ

●インブリード

MON/Jms/GbsSlc

無菌動物

●インブリードラット

F344/NSlc(GF)

●インブリードマウス(三協ラボサービス株)

Tsl : C57BL/6Ncr

遺伝子改変動物

●マウス

C57BL/6-Tg(CAG-EGFP)(グリーンマウス)
C57BL/6JmsSlc-Tg(*gpt* delta)
BALB/c *Rag-2^{-/-}Jak3^{-/-}*(高度免疫不全)

●ヌードマウス

C57BL/6-BALB/c-*nu/nu*-EGFP(EGFP全身発現ヌードマウス)

●ラット

SD-Tg(CAG-EGFP)(グリーンラット)

★Slc:SD-Tg(SOD1H46R-4)

●疾患モデル

★APP^{OSK}-Tg[C57BL/6-Tg(APP^{OSK})](オリゴマー蓄積-老人斑形成なし)
★APPWT-Tg[C57BL/6-Tg(APP^{WT})](APP^{OSK}の対照動物)
★Tau609 Tg[C57BL/6-Tg(*tau*609)](タウ病理)
★Tau784 Tg[C57BL/6-Tg(*tau*784)](タウ病理)
★Tau264 Tg[C57BL/6-Tg(*tau*264)](Tau609, Tau784の対照動物)
—ノックインマウス—

★OSK-KI[C57BL/6-Tg(OSK-KI)](マウスAβを産生)
(特許第6323876号)

(株)星野試験動物飼育所

●アウトブリードマウス

Hos : HR-1(ヘアレス)

●ハイブリッドマウス

Hos : HRM2(メラニン保有)

●アウトブリードラット

Hos : OLETF(2型糖尿病)
Hos : LETO(OLETFの対照動物)
Hos : ZFDM-*Lepr^{db}*(2型糖尿病)

(一財)動物繁殖研究所

●インブリードマウス

IVCS(4日性周期)
C57BLKS/Jlar-*Lepr^{db}*/*Lepr^{db}*(肥満2型糖尿病)
TSOD(肥満2型糖尿病)

●アウトブリードラット

lar : Wistar-Imamichi
lar : Long-Evans

エンヴィーゴ(旧ハランOEM生物動物)

●アウトブリードラット

★RocHan® : WIST

●インブリードマウス

★CBA/CaOlaHsd

●免疫不全モデルマウス

★C.B-17/*IcrHsd-Prkdc^{scid}*

その他(conventional動物)

●ミニブタ

☆(一財)日生研・NPO法人医用ミニブタ研究所)

●マイクロミニビグ

☆国内繁殖生産(富士マイクラ(株))

●医学用ベビーブタ(SPF)SHIZUOKA EXPIG

☆静岡県畜産技術研究所中小家畜研究センター

●ビーグル犬

☆国内繁殖生産((一財)動物繁殖研究所)

●フェレット

自家繁殖生産(中伊豆支所)

●コモンマーモセット

★印は受託生産動物、☆印は仕入販売動物です。



日本エス エル シー株式会社

〒431-1103 静岡県浜松市中央区湖東町3371-8

TEL(053)486-3178代 FAX(053)486-3156

<http://www.jslc.co.jp/>

営業専用
TEL

関東エリア (053)486-3155代

関西エリア (053)486-3157代

九州エリア (0942)41-1656代

一般社団法人 日本毒性学会

[名誉会員（就任年度順）]

今道 友則	池田 正之	加藤 隆一	井村 伸正
佐藤 哲男	渡辺 民朗	小野寺 威	遠藤 仁
鎌滝 哲也	赤堀 文昭	土井 邦雄	長尾 拓
福島 昭治	津田 修治	吉田 武美	堀井 郁夫
大野 泰雄	上野 光一	山添 康	永沼 章
中村 和市	眞鍋 淳		

[功労会員（就任年度順）]

高仲 正	佐藤 温重	安田 峯生	大沢 基保
今井 清	降矢 強	玄番 宗一	唐木 英明
仮家 公夫	暮部 勝	野村 護	牧 栄二
三森 国敏	佐神 文郎	遠山 千春	小野寺博志
杉本 哲朗	西田 信之	中村 和市	姫野誠一郎
眞鍋 淳	安仁屋洋子	横井 毅	久田 茂
青木 豊彦	山田 久陽	天野 幸紀	菅野 純
佐藤 雅彦	苗代 一郎	中江 大	鰐渕 英機
熊谷 嘉人	渋谷 淳		

[賛助会員（五十音順）]

●ダイヤモンド

(株)新日本科学

●プラチナ

第一三共(株)

●ゴールド

旭化成ファーマ(株)	あすか製薬(株)
アステラス製薬(株)	EA ファーマ(株)
エーザイ(株)	大塚製薬(株)
小野薬品工業(株)	花王(株)
一般財団法人化学物質評価研究機構	科研製薬(株)
杏林製薬(株)	協和キリン(株)
興和(株)	三栄源エフ・エフ・アイ(株)
サントリーホールディングス(株)	(株)三和化学研究所
塩野義製薬(株)	(株)資生堂
シミックファーマサイエンス(株)	(株)新日本科学イナリサーチセンター
住友ファーマ(株)	住友化学(株)
(一財)生物科学安全研究所	ゼリア新薬工業(株)
千寿製薬(株)	大正製薬(株)
大鵬薬品工業(株)	武田薬品工業(株)
田辺三菱製薬(株)	中外製薬(株)
トーアエイヨー(株)	東レ(株)
株式会社トランスジェニック	(一社)日本化学工業協会
日本香料工業会	日本新薬(株)
ファイザー(株)	扶桑薬品工業(株)
(株)ボゾリサーチセンター	Meiji Seika ファルマ(株)
メディフォード(株)	持田製薬(株)
(株)薬物安全性試験センター	ヤンセンファーマ株式会社
ライオン(株)	

[役員]（2024～2025年度）

理事長	広瀬 明彦	浅沼 幹人	阿部（富澤）香織
理事	朝倉 省二	鍛冶 利幸	北嶋 聡
	安西 尚彦	田口 恵子	土屋 由美
	鈴木 睦	南谷賢一郎	西村 泰光
	奈良岡 準	藤村 成剛	藤原 泰之
	黄 基旭	務台 衛	山本 千夏
	宮内 慎		
	吉成 浩一		
監事	杉山 篤	三浦 伸彦	

[学術年会長]

第52回（2025年）	黄 基旭
第53回（2026年）	宮脇 出
第54回（2027年）	安西 尚彦
第55回（2028年）	角崎 英志

[委員会]（2024～2025年度） ●印：常置委員会 ◆印：小委員会、WG

● 理事長

広瀬 明彦

● 総務委員会	委員長	藤原 泰之
◆ 連携小委員会	委員長	黄 基旭
◆ 評議員選考小委員会	委員長	北嶋 聡
◆ 名誉会員および功労会員選考委員会	委員長	藤原 泰之
◆ 指針値検討小委員会	委員長	橋本 清弘
◆ 企画戦略小委員会	委員長	高橋 祐次
◆ ダイバーシティ推進 WG	WG 長	安西 尚彦
◆ 中高生向け企画小委員会	委員長	奈良岡 準

● 財務委員会

委員長 朝倉 省二

● 編集委員会	委員長	鍛冶 利幸
	副委員長	古武弥一郎
	副委員長	藤原 泰之
◆ JTS 編集委員会	委員長	鍛冶 利幸
	副委員長	古武弥一郎
	副委員長	藤原 泰之
◆ FTS 編集委員会	委員長	永沼 章
◆ Executive Editor 小委員会	委員長	永沼 章
◆ 田邊賞選考小委員会	委員長	黄 基旭
◆ 毒性学ニュース編集委員会	委員長	古武弥一郎

● 教育委員会	委員長	土屋 由美
(小委員長・委員は10月末で交代)		
◆ 生涯教育小委員会	委員長	美谷島克宏
◆ 基礎講習会小委員会	委員長	橋本 清弘
◆ 認定試験小委員会	委員長	福島 民雄
◆ トキシコロジー 4ed. 編集 WG	WG 長	鈴木 睦

● 学術広報委員会	委員長	吉成 浩一
◆ 学会賞等選考小委員会	委員長	山添 康
◆ 佐藤哲男賞・学会貢献賞選考小委員会	委員長	姫野誠一郎
◆ 特別賞等選考小委員会	委員長	菅野 純
◆ 技術賞選考小委員会	委員長	三島 雅之
◆ 日化協 LRI 賞選考小委員会	委員長	小椋 康光
◆ 学術小委員会	委員長	吉成 浩一
◆ 広報小委員会・HP 担当	委員長	宮内 慎
	副委員長	黒岩 有一
◆ トピックス小委員会	委員長	北口 隆

その他関連の委員会

○ IUTOX 担当	西村 泰光
Executive Committee, Director	広瀬 明彦
○ ASIATOX 担当	田口 恵子
ASIATOX Councilor	田口 恵子
	小椋 康光
	広瀬 明彦
	熊谷 嘉人
	菅野 純
○ SOT 担当	小野 竜一
○ 日本学術会議担当委員	西村 拓也
	石塚真由美
	菅野 純
	石塚真由美
	小椋 康光

部 会

○ 生体金属部会	部会長	浅沼 幹人
○ 医薬品毒性機序部会	部会長	北嶋 聡
○ 付加体科学部会	部会長	上原 孝

2025 年 10 月 1 日 印刷

2025 年 10 月 1 日 発行

発行人 広瀬 明彦
編集人 鍛冶 利幸
毒性学ニュース編集委員会委員長 古武 弥一郎

発行所 一般社団法人日本毒性学会

学会事務局 〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋 1-1-1

パレスサイドビル

(株)毎日学術フォーラム

一般社団法人日本毒性学会事務局

TEL (03) 6267-4550 FAX (03) 6267-4555

E-mail : jsotq@jsot.jp

振替 00150-9-426831

<http://www.jsot.jp>

印刷所 株式会社 センキョウ

〒983-0035 仙台市宮城野区日の出町二丁目4-2

TEL (022) 236-7161